

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成27年6月1日  
(第9期) 至 平成28年5月31日

株式会社パソナグループ

(E05729)

第9期（自平成27年6月1日 至平成28年5月31日）

# 有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社パソナグループ

# 目 次

	頁
第9期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	6
4 【関係会社の状況】	10
5 【従業員の状況】	11
第2 【事業の状況】	12
1 【業績等の概要】	12
2 【生産、受注及び販売の状況】	17
3 【対処すべき課題】	18
4 【事業等のリスク】	19
5 【経営上の重要な契約等】	23
6 【研究開発活動】	23
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	23
第3 【設備の状況】	25
1 【設備投資等の概要】	25
2 【主要な設備の状況】	25
3 【設備の新設、除却等の計画】	27
第4 【提出会社の状況】	28
1 【株式等の状況】	28
2 【自己株式の取得等の状況】	31
3 【配当政策】	31
4 【株価の推移】	32
5 【役員の状況】	32
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	37
第5 【経理の状況】	48
1 【連結財務諸表等】	49
2 【財務諸表等】	89
第6 【提出会社の株式事務の概要】	101
第7 【提出会社の参考情報】	102
1 【提出会社の親会社等の情報】	102
2 【その他の参考情報】	102
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	103

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月19日

【事業年度】 第9期(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

【会社名】 株式会社パソナグループ

【英訳名】 Pasona Group Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役グループ代表兼社長 南部 靖之

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

【電話番号】 (03)6734-0200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 仲瀬 裕子

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

【電話番号】 (03)6734-0200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 仲瀬 裕子

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
決算年月	平成24年5月	平成25年5月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月
売上高 (百万円)	181,498	207,685	208,660	226,227	263,728
経常利益 (百万円)	2,091	3,187	3,135	3,343	3,855
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	29	610	526	214	243
包括利益 (百万円)	679	1,611	1,554	1,555	397
純資産額 (百万円)	26,295	26,253	27,181	29,620	26,735
総資産額 (百万円)	70,889	71,276	75,615	88,641	85,356
1株当たり純資産額 (円)	54,853.94	558.50	571.37	579.76	515.22
1株当たり当期純利益 (円)	78.78	16.30	14.05	5.82	6.62
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	76.61	16.27	14.04	—	—
自己資本比率 (%)	29.0	29.3	27.9	24.1	22.2
自己資本利益率 (%)	0.1	2.9	2.5	1.0	1.2
株価収益率 (倍)	699.4	36.8	35.1	144.7	113.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,431	5,877	1,639	8,587	482
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△5,718	△4,532	△4,910	△4,645	△2,176
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,479	△4,285	1,180	△2,004	△2,024
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	22,739	19,948	18,021	20,298	16,441
従業員数 (名) (外、平均臨時雇用者数)	4,452 (1,087)	4,778 (1,211)	5,022 (1,294)	6,584 (1,302)	7,144 (1,406)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 従業員数は就業人員数であり、期間契約従業員は含まれておりません。  
3 平成25年12月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で分割しております。第6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。  
4 第8期及び第9期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
5 当社は第2四半期連結累計期間より「株式給付信託(J-E S O P)」及び「株式給付信託(B B T)」を導入しており、株主資本において自己株式として計上されている「株式給付信託(J-E S O P)」及び「株式給付信託(B B T)」に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、期末発行済株式総数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。  
6 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当連結会計年度より、「当期純利益」を「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
決算年月	平成24年5月	平成25年5月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月
売上高 (百万円)	5,414	6,510	5,742	6,450	7,383
経常利益 (百万円)	72	183	297	495	735
当期純利益 (百万円)	239	35	569	575	578
資本金 (百万円)	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
発行済株式総数 (株)	416,903	416,903	41,690,300	41,690,300	41,690,300
純資産額 (百万円)	15,238	14,899	15,094	14,940	15,077
総資産額 (百万円)	39,912	42,088	43,555	48,952	44,376
1株当たり純資産額 (円)	40,690.00	397.85	403.06	406.01	409.75
1株当たり配当額 (円)	1,000.00	1,000.00	10.00	12.00	12.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益 (円)	639.29	0.95	15.21	15.60	15.73
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	38.2	35.4	34.7	30.5	34.0
自己資本利益率 (%)	1.6	0.2	3.8	3.8	3.9
株価収益率 (倍)	86.2	631.7	32.4	54.0	47.5
配当性向 (%)	156.4	1,052.8	65.7	76.9	76.3
従業員数 (名)	143	174	171	214	268
(外、平均臨時雇用者数)	(25)	(16)	(18)	(21)	(26)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 従業員数は就業人員数であり、期間契約従業員は含まれておりません。また、関係会社からの出向者を含み、関係会社への出向者は含まれておりません。  
3 平成25年12月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で分割しております。第6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。  
4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
5 株主資本において自己株式として計上されている「株式給付信託 (J-E S O P) 及び「株式給付信託 (B B T) に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、期末発行済株式総数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

## 2 【沿革】

主婦の方々の就労機会創出を主たる目的に、昭和51年2月に株式会社パソナの前身は設立されました。

その後、人材派遣・請負、人材紹介、アウトソーシング、人材コンサルティング、教育・研修などの事業（以下、「人材関連事業」と）と、その他事業を分離したうえで、経営資源を人材関連事業に集約すべく、平成12年6月1日に旧株式会社パソナから国内の人材関連事業の営業を譲受け、また、商号についても、同日に旧株式会社パソナが株式会社南部エンタープライズに商号を変更すると同時に、株式会社パソナサンライズから株式会社パソナへと商号を変更いたしました。

株式会社パソナは、平成19年12月3日付で株式移転により完全親会社となる株式会社パソナグループ（当社）を設立し、当社の完全子会社となりました。また当社は、平成20年3月1日に当社を承継会社とする吸収分割により株式会社パソナより関係会社管理機能及び一部の事業を承継いたしました。

### 沿革

年月	事項
昭和51年2月	大阪市北区に人材派遣事業を主業務として、(株)テンポラリーセンターの前身を設立
平成5年6月	(株)テンポラリーセンターの商号を(株)パソナに変更
平成12年6月	旧(株)パソナ(現(株)南部エンタープライズ)より人材関連事業に関する営業を譲受け、商号を(株)パソナに変更
平成13年12月	大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場(現JASDAQ)に上場
平成15年10月	東京証券取引所市場第一部に上場
平成16年3月	(株)パソナテックが同社株式を日本証券業協会(ジャスダック)に店頭登録
9月	(株)ベネフィット・ワンが同社株式を日本証券業協会(ジャスダック)に店頭登録
平成18年3月	(株)ベネフィット・ワンが同社株式を東京証券取引所市場第二部に上場
平成19年10月	(株)関西雇用創出機構、(株)関東雇用創出機構の株式を追加取得し子会社化
12月	株式移転により純粋持株会社として(株)パソナグループを設立 東京証券取引所市場第一部、大阪証券取引所ヘラクレス(現JASDAQ)に上場
平成20年12月	大阪証券取引所ヘラクレス(現JASDAQ)の上場を廃止
平成21年7月	(株)パソナが(株)三井物産ヒューマンリソースを吸収合併
11月	(株)パソナテックの株式を公開買付により追加取得し完全子会社化
平成22年2月	エイアイジースタッフ(株)の全株式を取得し完全子会社化
3月	(株)パソナキャリアが(株)パソナと合併し、商号を(株)パソナに変更
4月	(株)パソナスパークルが(株)パソナソーシングと合併し、商号を(株)パソナソーシングに変更
9月	(株)パソナがエイアイジースタッフ(株)を吸収合併
12月	(株)パソナが(株)パソナグローバルを吸収合併 (株)パソナeプロフェッショナルの株式を追加取得し完全子会社化
平成23年3月	(株)ケーアイエスの株式を取得し子会社化
6月	(株)パソナeプロフェッショナルが(株)パソナの営業・販売分野の派遣及び請負事業に関する権利義務を吸収分割により承継し、商号を(株)パソナマーケティングに変更 (株)パソナがリコー・ヒューマン・クリエイツ(株)、リコー三愛ライフ(株)の人材派遣事業に関する権利義務を吸収分割により承継
11月	(株)関西雇用創出機構の商号を(株)日本雇用創出機構に変更 韓国にPasona Korea Co.,Ltd. を子会社として設立
12月	(株)国際交流センターの株式を取得し完全子会社化 (株)パソナ農援隊を完全子会社として設立
平成24年1月	インドネシアにPT Pasona HR Indonesiaを子会社として設立
3月	キャプラン(株)の株式を取得し完全子会社化 (株)ベネフィット・ワンが(株)ユニマツソリューションズの株式を取得し完全子会社化、商号を(株)ベネフィットワンソリューションズに変更
4月	(株)安川ビジネススタッフの株式を取得し子会社化
5月	ビーウィズ(株)の株式を取得し子会社化

年月	事項
平成24年 5月	(株)ベネフィット・ワンが(株)保健教育センターの株式を取得し完全子会社化 中国に(株)ベネフィット・ワンがBenefit One Shanghai Inc.を設立
7月	(株)保健教育センターが(株)ベネフィット・ワンのヘルスケア事業に関する権利義務を吸収分割により承継し、商号を(株)ベネフィットワン・ヘルスケアに変更
8月	(株)国際交流センターの商号を(株)パソナランゲージに変更
9月	(株)パソナふるさとインキュベーションを(株)ベネフィット・ワンとの合弁会社として設立
10月	(株)パソナエンパワーが(株)パソナマーケティングを吸収合併し、商号を(株)パソナマーケティングに変更 米国に(株)ベネフィット・ワンがBenefit One USA, Inc.を設立
11月	(株)パソナテキーラを子会社として設立
12月	タイに豊田通商(株)の現地法人との合弁会社として Pasona HR Consulting Recruitment (Thailand) Co., Ltd.を設立
平成25年 1月	キャプラン(株)が(株)アサヒビールコミュニケーションズの株式を取得し子会社化
2月	(株)パソナライフケアを完全子会社として設立
3月	(株)パソナテキーラをTquila International PTE Ltd., salesforce.com, inc.と合弁会社化
5月	(株)パソナライフケアが(株)パソナソーシングの福祉介護事業、家事代行事業及びケアワーカー派遣事業に関する権利義務を吸収分割により承継 (株)パソナが(株)パソナソーシングを吸収合併
9月	(株)パソナが富士火災ビジネスソリューションズ(株)の人材派遣事業に関する権利義務を譲り受け
10月	シンガポールに(株)ベネフィット・ワンが伊藤忠商事(株)との合弁会社として Benefit One Asia Pte. Ltd.を設立
12月	(株)エコLOVEの株式を取得し完全子会社化
平成26年 1月	タイに(株)ベネフィット・ワンがBenefit One (Thailand) Co., Ltd.を設立
2月	台湾にBenefit One Asia Pte. Ltd.が台湾の電気通信事業者「中華電信」との合弁会社として Chunghwa Benefit One Co., Ltd.を設立
4月	(株)メディカルアソシアの株式を取得し子会社化
5月	インドネシアに(株)ベネフィット・ワンがPT. BENEFIT ONE INDONESIAを設立 マレーシアにPasona HR Malaysia Sdn. Bhd.を子会社として設立
11月	(株)メディカルアソシアの商号を(株)パソナメディカルに変更
平成27年 1月	ドイツに(株)ベネフィット・ワンがBenefit One Deutschland GmbHを設立 (株)丹後王国を子会社として設立
3月	(株)パソナが住商アドミサービス(株)の登録型派遣事業を譲り受け
4月	(株)パソナ東北創生を完全子会社として設立 パナソニック ビジネスサービス(株)の株式を取得して子会社化し、商号を(株)パソナ・パナソニック ビジネスサービスに変更
6月	(株)パソナが(株)パソナランゲージを吸収合併
8月	(株)ベネフィットワン・ペイロールを(株)ベネフィット・ワンとの合弁会社として設立
10月	インドネシアのPT. Dutagriya Saranaの株式を取得し子会社化
12月	ビーウィズ(株)の株式を追加取得し完全子会社化
平成28年 3月	(株)パソナサイバーラボをTquila International PTE Ltd.との合弁会社として設立
4月	(株)パソナが大坂ガスエクセレントエージェンシー(株)の株式を取得して子会社化し、商号を (株)パソナOGXAに変更 (株)パソナが(株)ムラタアクティブパートナーの人材派遣事業に関する権利義務を吸収分割により承継 (株)パソナナレッジパートナーをパナソニックIPマネジメント(株)、(株)日本雇用創出機構との合弁 会社として設立
6月	(株)パソナメディカルの株式を追加取得し完全子会社化



### 3 【事業の内容】

当社グループは、持株会社である当社と連結子会社58社及び持分法適用関連会社4社で構成されており、エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）、キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）、福利厚生アウトソーシングなどの人材関連事業を行っております。

平成28年5月31日現在の事業セグメントと主なグループ各社の位置付けは以下のとおりです。

#### (1) 事業のセグメントと主なグループ会社

セグメント	主なグループ会社	
<b>HRソリューション</b>		
エキスパートサービス(人材派遣)	エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)、HRコンサルティング、教育・研修、その他	
インソーシング(委託・請負)	(株)パソナ	キャプラン(株)
HRコンサルティング、教育・研修、その他	(株)パソナテック	ビーウィズ(株)
	(株)パソナマーケティング	(株)安川ビジネススタッフ
グローバルソーシング(海外人材サービス)	(株)パソナロジコム	(株)ケーアイエス
	(株)パソナ岡山	パソナ・パナソニック ビジネスサービス(株)
	(株)パソナ農援隊	(株)パソナテックシステムズ
	(株)パソナメディカル	(株)アサヒビールコミュニケーションズ
	(株)パソナテキーラ	新日本工業(株)
	(株)エコLOVE	(株)パソナOGXA
	(株)日本雇用創出機構	(株)スマートスタイル
	<b>グローバルソーシング(海外人材サービス)</b>	
	Pasona N A, Inc.	Pasona India Private Limited
	PASONA CANADA, INC.	Pasona Singapore Pte. Ltd.
	Pasona Taiwan Co., Ltd.	Pasona Education Co. Limited
	MGR Consulting Co., Ltd.	Pasona Korea Co., Ltd.
	PASONA ASIA CO., LIMITED	Pasona HR Malaysia Sdn. Bhd.
	PT Pasona HR Indonesia	PT. Dutagriya Sarana
	Pasona Human Resources (Shanghai) Co., Ltd.	
	Pasona HR Consulting Recruitment (Thailand) Co., Ltd.	
	Pasona Tech Vietnam Co., Ltd.	
キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	(株)パソナ	(株)パソナフォーチュン
アウトソーシング	(株)ベネフィット・ワン	(株)ベネフィットワンソリューションズ
	(株)ベネフィットワン・ヘルスケア	(株)ベネフィットワン・ペイロール
	Benefit One Shanghai Inc.	Benefit One Asia Pte. Ltd.
	Benefit One USA, Inc.	PT. BENEFIT ONE INDONESIA
	Benefit One Deutschland GmbH	Benefit One (Thailand) Co., Ltd.
<b>ライフソリューション</b>	<b>ライフソリューション</b>	
<b>パブリックソリューション</b>	(株)パソナフォスター	(株)パソナライフケア
	<b>パブリックソリューション</b>	
	(株)パソナハートフル	(株)パソナふるさとインキュベーション
	(株)丹後王国	(株)パソナ東北創生

## (2) 主要なセグメントの内容

### **HRソリューション**

#### ①エキスパートサービス（人材派遣）

「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律（以下「労働者派遣法」という）」の規定に従い、厚生労働大臣の許可を受けて派遣スタッフを募集・登録し、企業等へ派遣する登録型の「一般労働者派遣事業」を行っております。当社グループが労働者を派遣するに際しては、予め派遣スタッフを募集・登録しておき、その登録者の中から派遣先の希望する条件に合致する派遣スタッフを人選し、期間を定めて当社グループとの間に雇用契約を締結したうえで、派遣先へ派遣しております。

当社グループではエキスパートサービスを下記のとおり区分しております。

##### a. クラリカル

OA機器操作など、あらゆる業界のオフィスで必要とされるスキルを要するOA事務職等の派遣です。

##### b. テクニカル

専門事務職（経理、貿易、保険・証券関係、通訳・翻訳等）の派遣であり、比較的高度なスキル、資格を要する事務職業務に関する派遣分野です。

##### c. ITエンジニアリング

ネットワーク技術者やSE・プログラマー、製造・設計技術者、PCエキスパートなど、IT関連業務に関する派遣分野です。なお、ITエンジニアリング分野でも高度な業務知識を必要とする開発系の技術者等については、子会社の株式会社パソナテックが行っております。

##### d. 営業・販売職

あらゆる業界の営業職、販売職、および営業・販売に関連する事務職（マーケティング、販売促進、補助業務その他）です。

##### e. その他エキスパートサービス

上記以外のエキスパートサービスと会計処理上のグループ内取引消去です。

#### ②インソーシング（委託・請負）

顧客から業務を受託または請け負い、当社グループの社員、その業務遂行のため期間を定めた雇用契約を締結した労働者等の体制で、当社グループが業務処理するものです。業務請負契約による取引には、オンサイト（顧客内）において受託業務を行う形態と、当社グループが自ら設備・システム等を有して、顧客の業務プロセスを受託するBPO（ビジネスプロセス・アウトソーシング）やコンタクトセンター運営等の形態がありますが、双方をインソーシングに含めております。

人材派遣契約では派遣スタッフへの指揮命令は派遣先が行うのに対し、業務請負契約では当社グループが労働者に指揮命令を行います。

#### ③HRコンサルティング、教育・研修、その他

子会社のキャプラン株式会社による教育研修機関「Jプレゼンスアカデミー」の運営、企業や官公庁自治体から受託している教育・研修、人材一元管理を支援するタレントマネジメントシステムの販売および導入・活用に関するコンサルティングなどの他、人材育成や人事管理等に関するコンサルティングを行っております。

#### ④グローバルソーシング（海外人材サービス）

海外において、人材紹介、人材派遣・請負、給与計算、教育・研修等のアウトソーシングなどフルラインの人材関連サービスを提供しております。

#### ⑤キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）

「人材紹介」は、「職業安定法」に基づき、厚生労働大臣の許可を受けて、転職・就職の希望者を募集・登録し、同時に求人情報を収集して相互のニーズをマッチングする有料職業紹介事業です。

また「再就職支援」は、会社都合による企業の退職者または退職予定者等（以下、サービス利用者）に対して、次の再就職先が決定するまで、職務経歴書作成や面接対策、求人情報の提供、メンタルケアなどの支援を行う事業です。早期退職制度の実施や外部への出向の促進など、企業が人員削減や社員の転進支援を行う場合において、こうした企業と基本契約を締結し、その企業から対価を受けて、サービス利用者の再就職を支援しております。

#### ⑥アウトソーシング

企業や官公庁・自治体等が、株式会社ベネフィット・ワンの運営する会員組織の法人会員となり、法人会員の従業員（個人会員）が宿泊施設、スポーツクラブ、各種学校等の福利厚生メニューを利用できる福利厚生代行業を主軸に、インセンティブ事業（多彩なポイント交換アイテムを通じたロイヤリティ・モチベーション向上支援サービス）、パーソナル事業（個人顧客に向けたサービスのリアルマッチング）、ヘルスケア事業（健診サービスや特定保健指導、メンタルチェック等の疾病予防のための健康支援）などを行っております。

### **ライフソリューション**

保育事業、介護事業、家事代行業などを行っております。

### **パブリックソリューション**

障害者の雇用創造に関する事業など社会福祉関連事業、地方創生事業などを行っております。

株式会社パソナグループ (持株会社)

グループ経営戦略の策定と業務遂行支援  
経営管理と経営資源の最適配分の実施  
雇用創造に係わる新規事業開発等

HRソリューション

エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)、HRコンサルティング、教育・研修その他

(株)パソナ	(株)パソナメディカル	(株)パソナテキーラ
(株)パソナテック	キャプラン(株)	(株)アサヒビールコミュニケーションズ
(株)パソナマーケティング	ビーウィズ(株)	(株)パソナテックシステムズ
(株)パソナロジコム	(株)安川ビジネススタッフ	(株)日本雇用創出機構
(株)パソナ岡山	(株)ケーアイエス	(株)パソナOGXA
(株)パソナ農援隊	パソナ・パナソニック	ビジネスサービス(株)
(株)エコLOVE	新日本工業(株)	(株)スマートスタイル
		他

グローバルソーシング(海外人材サービス)

Pasona N A, Inc.	Pasona India Private Limited
PASONA CANADA, INC.	Pasona Singapore Pte. Ltd.
Pasona Taiwan Co., Ltd.	Pasona Education Co. Limited
MGR Consulting Co., Ltd.	Pasona HR Consulting Recruitment (Thailand) Co., Ltd.
PASONA ASIA CO., LIMITED	Pasona Korea Co., Ltd.
Pasona Human Resources (Shanghai) Co., Ltd.	Pasona HR Malaysia Sdn. Bhd.
PT Pasona HR Indonesia	Pasona Tech Vietnam Co., Ltd.
PT. Dutagriya Sarana	
	他

キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)

(株)パソナ	(株)パソナフォーチュン	他
--------	--------------	---

アウトソーシング

(株)ベネフィット・ワン	(株)ベネフィットワンソリューションズ
(株)ベネフィットワン・ヘルスケア	(株)ベネフィットワン・ペイロール
Benefit One Shanghai Inc.	Benefit One Asia Pte. Ltd.
Benefit One USA, Inc.	PT. BENEFIT ONE INDONESIA
Benefit One Deutschland GmbH	Benefit One (Thailand) Co., Ltd.
	他

ライフソリューション

(株)パソナフォスター	(株)パソナライフケア
-------------	-------------

パブリックソリューション

(株)パソナハートフル	(株)パソナふるさとインキュベーション
(株)丹後王国	(株)パソナ東北創生
	他

#### 4 【関係会社の状況】

当社グループは、人材派遣・請負、人材紹介、再就職支援、福利厚生アウトソーシングなどの人材関連事業を行っており、連結子会社58社及び持分法適用関連会社4社(平成28年5月31日現在)は次のとおりであります。

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
株式会社パソナ (注) 1, 5	東京都千代田区	3,000	人材派遣、委託・請負、 人材紹介、再就職支援	100.00	経営管理 商標の許諾 業務委託先 役員の兼任5名 資金の預り 債務の被保証
株式会社ベネフィット・ワン (注) 1, 2, 3	東京都新宿区	1,527	福利厚生代行サービス	55.24	福利厚生業務の委託先 役員の兼任6名 資金の預り
ピーウィズ株式会社	東京都新宿区	300	コンタクトセンター、 BPO(ビジネスプロセス・ アウトソーシング)	100.00	経営管理 役員の兼任2名 資金の預り
株式会社パソナテック	東京都新宿区	100	人材派遣、委託・請負、 人材紹介	100.00	経営管理 商標の許諾 役員の兼任2名 資金の預り
キャブラン株式会社 (注) 4	東京都港区	100	人材派遣、委託・請負、 人材紹介、教育研修	100.00 (2.03)	経営管理 役員の兼任3名 資金の預り
株式会社パソナメディカル	東京都千代田区	100	人材派遣、委託・請負、 人材紹介	99.56	経営管理 商標の許諾 役員の兼任2名 資金の預り
新日本工業株式会社 (注) 4	三重県松阪市	52	印刷、映像・WEB・マ ルチメディア制作、イベ ント・展示会プロデュ ース等	60.00 (60.00)	役員の兼任1名 資金の預り
株式会社パソナマーケティング	大阪府大阪市	50	人材派遣、委託・請負、 人材紹介	100.00	経営管理 商標の許諾 役員の兼任1名 資金の預り
株式会社パソナ岡山	岡山県岡山市	30	人材派遣、委託・請負、 人材紹介	70.00	商標の許諾 役員の兼任1名 資金の預り
パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社	大阪府門真市	20	総務・オフィスサポー ト、マニュアル・販促物 制作、デジタルコンテン ツ制作、ドキュメントサ ービス等	66.50	商標の許諾 役員の兼任2名 資金の預り
その他48社					
(持分法適用関連会社)					
4社					

(注) 1 特定子会社であります。

2 有価証券報告書の提出会社であります。

3 当グループの連結子会社の中で、国内の証券市場に公開している会社は次のとおりであります。

東証2部：株式会社ベネフィット・ワン

4 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

5 株式会社パソナについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

① 売上高	132,169百万円
② 経常利益	2,589百万円
③ 当期純利益	1,497百万円
④ 純資産額	12,730百万円
⑤ 総資産額	30,592百万円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成28年5月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)	
エキスパートサービス(人材派遣)、 インソーシング(委託・請負)他	5,067	( 997)
キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	786	( 11)
アウトソーシング	812	( 203)
ライフソリューション、パブリックソリューション	211	( 169)
全社	268	( 26)
合計	7,144	(1,406)

- (注) 1 従業員数は全連結会社の就業人員の合計であり、臨時従業員数は最近1年間の平均人員を括弧内に外数で記載しております。
- 2 従業員数が前連結会計年度に比べ560名増加しておりますが、この主な理由は、連結子会社の増加や、新規事業及び注力事業の取り組み強化によるものであります。
- 3 当連結会計年度より、従来「エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他」に含まれていたプレース&サーチ(人材紹介)を「アウトプレースメント(再就職支援)」と統合し、「キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)」に変更しております。

### (2) 提出会社の状況

平成28年5月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
268 (26)	38.4	8.4	5,484

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を括弧内に外数で記載しております。
- 2 平均勤続年数の算定にあたっては、当社連結子会社からの転籍者については当該会社の勤続年数を通算しております。
- 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 4 当社の従業員は、当社グループ全体に係る管理・企画等の業務を行っており、全社のセグメントに記載しております。
- 5 従業員数が前事業年度末に比べ54名増加しておりますが、この主な理由は、新規事業の取り組み強化、およびシェアード機能の拡大によるものであります。

### (3) 労働組合の状況

特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

##### ①当連結会計年度の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業業績や雇用情勢の回復基調が続く一方で、中国や新興国の景気減速影響が懸念されるなど、先行きに不透明感も見られました。

また中長期的には、労働力人口の減少や企業のグローバル化に伴い、人材の柔軟な働き方の支援や教育が大きな課題となっております。当社グループではこのような環境の中、多様化する企業ニーズや課題をいち早く捉え、様々なサービスインフラを構築するため、BPO（ビジネスプロセス・アウトソーシング）事業の強化、専門人材の育成、グローバル化支援などに注力したほか、新たな価値を創造するべく、ヘルスケアや地方創生などの事業領域にも積極的に取り組みました。

その結果、M&Aにより大幅な増収となったインソーシング（委託・請負）をはじめ多くのセグメントで増収となり、売上高は263,728百万円（前連結会計年度比16.6%増）となりました。

売上総利益は52,808百万円（前連結会計年度比15.1%増）となり、販管費はM&Aや事業領域拡大のための先行投資などにより48,948百万円（前連結会計年度比15.5%増）と増加したものの、営業利益は3,860百万円（前連結会計年度比10.6%増）、経常利益は3,855百万円（前連結会計年度比15.3%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は243百万円（前連結会計年度比13.8%増）となりました。

##### ■連結業績

	平成27年5月期	平成28年5月期	増減率
売上高	226,227百万円	263,728百万円	16.6%
営業利益	3,490百万円	3,860百万円	10.6%
経常利益	3,343百万円	3,855百万円	15.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	214百万円	243百万円	13.8%

##### ②事業別の状況（セグメント間取引消去前）

※当連結会計年度よりセグメント区分を変更しております。前連結会計年度比については、平成27年5月期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値と比較しております。

#### HRソリューション

##### エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他

売上高 218,231百万円 営業利益 1,959百万円

[エキスパートサービス] 売上高 132,588百万円

人材需要は好調に推移し、サービス業やメーカーをはじめ幅広い業界で受注が増加しました。社会環境とニーズに合わせ、派遣スタッフの専門性を重視しキャリアコンサルティングも強化するなど、人材育成をグループ全体で推進しました。またスキルアップに合わせて、料金交渉にも積極的に取り組みました。結果、金融や経理などの専門事務や貿易事務などが伸長し業績に貢献しました。

平成28年4月には株式会社パソナが、大阪ガスエクセレントエージェンシー株式会社（現・株式会社パソナOGXA）を子会社化して関西エリアの事業基盤を強化したほか、株式会社村田製作所の子会社である株式会社ムラタアクティブパートナーの人材派遣事業を譲り受け、エレクトロニクス分野の研究開発人材を拡充しました。

これらの結果、売上高は132,588百万円（前連結会計年度比0.0%減）となり、前連結会計年度は連結納税移行に伴う決算期変更で一部子会社が14ヶ月決算でしたが、この影響を除く実質ベースでは増収となりました。

[インソーシング] 売上高 73,417百万円

企業においては、業務効率化に加えて、マイナンバー導入や派遣法・労働契約法の改正を契機に、様々な雇用形態の人材管理や人材ポートフォリオを最適化するため、組織コンサルティングの需要が増大しました。当社グループでは人材派遣、BPOを柔軟に組み合わせ、顧客に最適なソリューションを提供できることを強みに、実績を積み上げました。パブリック分野においては、窓口業務や保育関連事務などの行政事務代行が拡大したほか、地方創生にかかるU・I・Jターン支援やシティプロモーション案件が増加するなど、受託分野も広がりました。

当連結会計年度からパソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社が総務事務領域の強化と業績に寄与しているほか、ビーウィズ株式会社が完全子会社化に伴う決算期変更で14ヶ月分の業績を計上したこともあり、売上高は73,417百万円（前連結会計年度比66.9%増）と大幅な増収となりました。

[HRコンサルティング、教育・研修、その他] 売上高 6,044百万円

企業や自治体において、外国人旅行者への接客、日本式おもてなしや語学など、インバウンド関連の教育・研修に加えて、階層別マネジメント研修などのニーズが増加しました。

また、キャプラン株式会社が導入・コンサルティングを行っているタレントマネジメントシステム（サクセスファクターズ）※は、人材のスキル・経験等の可視化や、グローバルでの一元管理ニーズの顕在化を背景に、導入企業数およびユーザー数が増加しました。その他の事業も順調に伸長した結果、売上高は6,044百万円（前連結会計年度比9.2%増）となりました。

※従業員スキル・経験等の可視化と評価の一元管理を可能にして、企業の人材活用・育成を支援するSAPグループの人材管理システム

[グローバルソーシング（海外人材サービス）] 売上高 6,180百万円

海外においては、人材派遣、人材紹介、BPOの全カテゴリーで増収となりました。特に市場規模の大きい北米では、新規または再進出する日系企業が急増したことから、パソナNAが平成27年7月にダラス支店、10月にはサンフランシスコ支店を開設して事業基盤を強化したことに加え、国内と迅速に連携した営業活動も奏功して業績を牽引しました。またASEANも伸長し、インドネシアでは平成27年10月に子会社化したPT. Dutagriya Sarana（デュータグリヤ サラナ）が人材派遣の増収に大きく寄与しました。加えて給与計算代行や採用代行なども伸長し、特にベトナムでは需要の高いITアウトソーシングや採用代行などの受託を順調に伸ばしました。これらの結果、売上高は6,180百万円（前連結会計年度比27.7%増）となりました。

以上の事業から構成される当セグメントの売上高は218,231百万円（前連結会計年度比16.7%増）となりました。

一方、セグメントの営業利益は1,959百万円（前連結会計年度比21.2%減）と減益となりました。のれん償却を含むM&A関連費用の増加に加え、クラウドシステムの技術者派遣事業の人材育成等の先行投資が続いており、当連結会計年度中に持分法適用会社から連結子会社に移行した影響で営業利益のマイナス幅が広がりました。引き続き技術者の育成を強化すると同時に、案件精査やノウハウ蓄積により規模拡大と収益性改善に注力してまいります。



#### **キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援) 売上高 16,265百万円 営業利益 2,904百万円**

転職市場の活況が続く中、人材紹介では経理や人事など管理部門を中心に成約が増加したほか、女性管理職候補の成約も伸長しました。また、利用者満足度を高めるための全社的取り組みが奏功し、利用者の評価やサービス品質が向上した結果、高い成長が持続しました。

再就職支援では、景気回復や人手不足感により雇用調整が減少したものの、起業や地方へのU・Iターンを含む多彩なセカンドライフ支援を強みに受注を獲得しました。きめ細かい利用者サポートにより、再就職決定までの期間がさらに短縮しました。

これらの結果、セグメントの売上高は16,265百万円（前連結会計年度比14.6%増）となり、両事業共にコンサルサルトの生産性が向上したことにより営業利益は2,904百万円（前連結会計年度比56.5%増）と大幅な増益となりました。

#### **アウトソーシング 売上高 26,229百万円 営業利益 4,276百万円**

当社子会社で福利厚生アウトソーシングサービスを手がける株式会社ベネフィット・ワンでは、福利厚生サービスを中心にサービスインフラを有効に活用しながら多角的に事業を展開すると共に、海外事業も積極的に推進しています。

主力の福利厚生事業においては提案営業を積極的に行い、中堅・中小企業の開拓にも注力した結果、従業員等が福利厚生メニューを個別に選択できる「カフェテリアプラン」の導入企業数が拡大しました。また、報奨金等をポイント化して管理・運営するインセンティブ事業も堅調に推移し、取引先と協働で個人顧客向けサービスを展開するパーソナル事業においても会員数が大幅に増加しました。

その結果、売上高は26,229百万円（前連結会計年度比21.2%増）、営業利益は4,276百万円（前連結会計年度比33.9%増）となりました。

#### **ライフソリューション、パブリックソリューション 売上高 5,618百万円 営業損失 477百万円**

ライフソリューションでは株式会社パソナフォスターにおいて待機児童解消や女性活躍等の政策が追い風となり、保育施設の受託などが増加、株式会社パソナライフケアでも介護施設の運営や家事代行サービスが堅調に推移しました。

パブリックソリューションでは、当連結会計年度より西日本最大級の道の駅を運営する株式会社丹後王国が本格稼動し売上貢献しました。

二つの事業を合わせた売上高は5,618百万円（前連結会計年度比3.4%増）と、前連結会計年度は14ヶ月決算会社の一部あったものの増収となりました。一方で利益面は、業容拡大に伴う人件費等の増加や、丹後王国の立ち上げコストなどにより、営業損失477百万円（前連結会計年度は営業損失60百万円）となりました。

#### **消去又は全社 売上高 △2,617百万円 営業利益 △4,802百万円**

グループ間取引に加えて、持株会社である株式会社パソナグループの販管費等が含まれています。東京本社移転に伴うオフィスの追加償却や、経営基盤強化の施策としてITインフラや経理・給与計算等のグループシェアード機能の強化を図ったことにより、コストが増加しました。

■セグメント別業績

売上高	平成27年5月期	平成28年5月期	増減率
HRソリューション	222,824百万円	260,726百万円	17.0%
エキスパートサービス(人材派遣) インソーシング(委託・請負)他	186,984百万円	218,231百万円	16.7%
エキスパートサービス(人材派遣)	132,621百万円	132,588百万円	△0.0%
インソーシング(委託・請負)	43,985百万円	73,417百万円	66.9%
HRコンサルティング、教育・研修、その他	5,536百万円	6,044百万円	9.2%
グローバルソーシング(海外人材サービス)	4,840百万円	6,180百万円	27.7%
キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	14,196百万円	16,265百万円	14.6%
アウトソーシング	21,643百万円	26,229百万円	21.2%
ライフソリューション、パブリックソリューション	5,433百万円	5,618百万円	3.4%
消去又は全社	△2,030百万円	△2,617百万円	—
合計	226,227百万円	263,728百万円	16.6%

営業損益	平成27年5月期	平成28年5月期	増減率
HRソリューション	7,534百万円	9,140百万円	21.3%
エキスパートサービス(人材派遣) インソーシング(委託・請負)他	2,485百万円	1,959百万円	△21.2%
エキスパートサービス(人材派遣)	2,485百万円	1,959百万円	△21.2%
インソーシング(委託・請負)			
HRコンサルティング、教育・研修、その他			
グローバルソーシング(海外人材サービス)			
キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	1,855百万円	2,904百万円	56.5%
アウトソーシング	3,193百万円	4,276百万円	33.9%
ライフソリューション、パブリックソリューション	△60百万円	△477百万円	—
消去又は全社	△3,983百万円	△4,802百万円	—
合計	3,490百万円	3,860百万円	10.6%

※当連結会計年度よりセグメント区分を変更しております。平成27年5月期については変更後のセグメント区分に組み替えた数値を記載しており、増減率は組み替え後の数値と比較しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末に比して3,857百万円減少し、16,441百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、482百万円（前連結会計年度8,587百万円の増加）となりました。

資金増加の主な内訳は、税金等調整前当期純利益3,861百万円（同3,208百万円）、減価償却費3,293百万円（同2,554百万円）、のれん償却額1,000百万円（同938百万円）等によるものであります。

資金減少の主な内訳は、退職給付に係る資産の増加516百万円（前連結会計年度567百万円の増加）、売上債権の増加1,971百万円（同273百万円）、未払消費税等の減少2,986百万円（同4,280百万円の増加）、法人税等の支払額2,417百万円（同2,088百万円）等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、2,176百万円（前連結会計年度4,645百万円の減少）となりました。

資金増加の主な内訳は、有形固定資産の売却による収入908百万円（同1百万円）等によるものであります。

資金減少の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出1,165百万円（同1,228百万円）、無形固定資産の取得による支出1,367百万円（同1,520百万円）、投資有価証券の取得による支出615百万円（同402百万円）及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出670百万円（同1,115百万円）等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、2,024百万円（前連結会計年度2,004百万円の減少）となりました。

資金増加の主な内訳は、長期借入れによる収入6,500百万円（同5,100百万円）等によるものであります。

資金減少の主な内訳は、長期借入金の返済による支出4,437百万円（前連結会計年度4,702百万円）、子会社の自己株式の取得による支出1,464百万円（前連結会計年度は発生なし）及び連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出1,060百万円（前連結会計年度は発生なし）等によるものであります。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

項目	平成24年 5月期	平成25年 5月期	平成26年 5月期	平成27年 5月期	平成28年 5月期
自己資本比率	29.0%	29.3%	27.9%	24.1%	22.2%
時価ベースの自己資本比率	29.1%	31.5%	24.1%	35.0%	32.2%
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	3.9年	1.9年	8.8年	1.6年	32.3年
インタレスト・カバレッジ・レシオ	23.7	31.6	9.8	49.5	3.0

（注）1 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

2 いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

3 株式時価総額は、自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

4 キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

5 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

6 平成28年5月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率は、平成27年5月期と比較して大きく変動しております。これは営業キャッシュ・フロー項目の未払消費税等の増減額が減少したことが主な要因となっております。前連結会計年度末において消費税率上昇により未払消費税残高が大きく増加していましたが、当連結会計年度においてこれを納付したことにより、営業キャッシュ・フローは前連結会計年度に比べて大きく減少しております。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当社グループは、人材派遣、委託・請負、人材紹介、再就職支援、福利厚生アウトソーシングなどの人材関連事業を行っており、提供するサービスの性格上、生産実績の記載に馴染まないため、記載しておりません。

### (2) 受注実績

生産実績と同様の理由により、記載しておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりとなります。

セグメントの名称	平成28年5月期		
	売上高(百万円)	構成比(%)	前期比(%)
HRソリューション	258,998	98.2	116.9
エキスパートサービス(人材派遣)、 インソーシング(委託・請負)他 (注)3	217,057	82.3	116.6
エキスパートサービス(人材派遣)、 インソーシング(委託・請負)	210,951	79.9	116.3
クラリカル	68,733	26.1	101.2
テクニカル	34,134	12.9	102.1
ITエンジニアリング	18,957	7.2	95.6
営業・販売職	5,578	2.1	95.8
その他エキスパートサービス	4,821	1.8	90.7
インソーシング	73,070	27.7	167.0
その他関連事業 (HRコンサル他)	5,656	2.1	107.7
グローバルソーシング	6,106	2.3	128.2
キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	16,222	6.2	114.5
アウトソーシング	25,718	9.8	120.4
その他 (注)4	4,729	1.8	102.4
全社	—	—	—
合計	263,728	100.0	116.6

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 「エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他」には、エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)、HRコンサルティング他、グローバルソーシング(海外人材サービス)の各事業を含んでおります。

4 「その他」には、ライフソリューション、パブリックソリューションを含んでおります。

上記に記載した当連結会計年度における売上高を地域別に示すと、次のとおりとなります。

区分	平成28年5月期		
	売上高(百万円)	構成比(%)	前期比(%)
北海道・東北	7,785	3.0	103.7
関東(東京以外)	23,498	8.9	117.6
東京	130,400	49.4	110.6
東海・北信越	19,178	7.3	109.1
関西	52,453	19.9	152.2
中国・四国・九州	24,143	9.2	100.5
海外	6,268	2.3	130.9
合計	263,728	100.0	116.6

### 3 【対処すべき課題】

国内における労働力不足の深刻化に加えて、働く一人ひとりの労働生産性を上げていくための能力開発や柔軟な働き方を支援する社会インフラの必要性がますます高まっております。そのような中で当社グループでは、一人ひとりが自分の人生設計に合わせた働き方ができる社会を目指し、多様なソリューションを提供し雇用創造に取り組んでいます。このような方針のもと、以下を次連結会計年度の重点課題として掲げています。

#### ①ソリューションサービスの深化

当社グループでは顧客企業に向けて、成長戦略や労働法制を鑑み派遣スタッフ、正社員、契約社員など従業員の様々な働き方をマネジメントし最適な雇用ポートフォリオの提案を行っています。加えてグループが持つリソースを活用し、女性や外国人などの労働参加を促すダイバーシティ支援サービスの構築も行っております。また働く人々に向けては、様々なITベンダーとのタイアップにより教育システムを充実させることでキャリアチェンジを可能にし、多様化する業務への対応を図っております。

#### ②成長ドライバーへの更なる注力

経済環境の変化から企業の業務効率化とグローバル化が進み、これを背景として当社グループのBPO事業とグローバル事業は成長を続けてまいりました。BPO事業ではさらに領域の拡大を図ると共に、業務プロセスの一部にAI・ロボットを活用しサービスレベルや仕事の質を向上させるという新しい時代に対応したメニューの開発も行っております。グローバル事業においては成長の見込まれるASEAN地域の事業拡大に注力し、ニーズの高い研修事業を展開することによってメニューの多様化を図ります。

#### ③収益性の改善

グループ力を結集して付加価値を高め利益を創出することに加え、グループの重複機能を見直し、バックオフィスオペレーションではAIを活用し業務を進化させるとともに更なる効率化を進めてまいります。あわせて同じビジネスモデルを持つグループ会社に展開または共通化を図ることにより、グループ全体で収益性を高めてまいります。

#### ④成長領域での価値創造

ヘルスケアと地方創生分野を成長領域として位置づけ、さらに注力してまいります。

ヘルスケアでは「健康経営」をテーマに企業向けのサービスを強化し、地方創生では、地域の豊かな資源を発展させるために「道の駅」事業のノウハウを蓄積すると共に、インバウンドを契機とした地方での産業の創出にも注力してまいります。

#### 4 【事業等のリスク】

当社グループは経営に重大な影響を及ぼす危機を未然に防止し、万一発生した場合には損失の極小化を図るため、リスクマネジメント規程を定めております。また、リスクに関する統括組織としてリスクマネジメント委員会を設置し、危機管理マニュアルに基づいて日常の対策および緊急時に適切な対応を行う体制を整備しております。また、内部監査室による内部監査を通じて各部署の日常的なリスク管理状況を監視しております。

なお将来に関する事項は、別段の記載のない限り当有価証券報告書提出日時点において判断したものであり、当社株式への投資に関連する全てのリスクを網羅するものではありません。

##### ①個人情報および機密情報の管理について

当社グループの各事業においては、派遣登録者、職業紹介希望者および再就職支援サービス利用者、さらにはアウトソーシング事業の会員企業の個人会員情報など、多数の個人情報を保有しております。当社グループでは個人情報保護方針を策定して個人情報の適正な取得・利用・提供等を行うと共に、個人情報についての開示・削除等の要求を受け付ける窓口を明確にしております。また、個人情報の漏洩や滅失を防止するために、技術面および組織面における必要かつ適切な安全管理措置を講じ、全役職員および全従業員に個人情報保護管理に関する教育を徹底しております。

さらに当社グループ、社員、登録スタッフの個人および取引先に関する営業秘密・重要情報の漏洩を防止すべき情報管理体制・管理手法を定め、その周知と実施の徹底に努めております。

当社グループの派遣スタッフおよび受託業務に従事するスタッフについては、各就業規則、秘密情報保持規程を定めています。

こうした当社グループの取組みにも拘わらず、各種規程類等の遵守違反、不測の事態等により個人情報および機密情報が外部に漏洩した場合、損害賠償請求や社会的信用の失墜等により、当社グループの業績および財務状況が影響を受ける可能性があります。

##### ②派遣スタッフの確保について

当社グループのエキスパートサービス（人材派遣）事業では、その事業の性質上、派遣スタッフの確保が非常に重要であり、当社グループは、派遣就業希望者をインターネット、新聞、雑誌等による広告や既登録者からの紹介などにより募集しております。また、当社グループでは、登録拠点の立地条件や店舗設備の充実、給与・福利厚生面での就労条件の充実、登録者一人ひとりのニーズに応じた就業機会を提供する担当者制の導入、教育・研修の拡充などにより、派遣スタッフの満足度を高めるよう努力し、派遣スタッフの安定確保に努めております。また、既に当社に登録しているものの現在は就業していない派遣スタッフとのコミュニケーションを強化し、既存登録者の囲い込みも進めております。しかしながら、このような施策によりましても、派遣需要に対して十分な派遣スタッフの確保を行えなかった場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

##### ③派遣料金について

当社グループのエキスパートサービス事業においては、派遣先企業に稼働時間単位または月単位で派遣料金を請求して売上を計上しており、売上原価として、業務内容や能力に応じて労働時間単位で派遣スタッフに支払う給与およびこれに伴う法定福利費、有給休暇取得費用、その他の費用を計上しております。当社グループは適正価格による取引、適正水準の給与支払いに努めており、派遣給与支払い水準の引上げや社会保険料負担増の際には請求料金についても値上げするべく派遣先企業との料金交渉に取り組んでおります。しかしながら、派遣給与と派遣料金の値上げまたは値下げが必ずしも同期しない可能性があることから、このような案件が急激に増加したり、同期しない期間が長期化した場合、エキスパートサービス事業の収益性が低下し、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

#### ④インソーシング（委託・請負）事業について

当社グループのインソーシング事業は、受託に際して、業務の範囲と内容、受注金額、受託期間、費用見積等を確認したうえで顧客との契約を締結しております。

当社グループが業務履行、進捗管理および労務管理を行うため、PMO（プロジェクトマネジメントオフィス）室を設置して随時状況を確認し、適切な対応に努めております。こうした取組みにもかかわらず、インソーシング事業のため管理する顧客情報・個人情報の取扱い上の事故、パブリック事業にかかわる手続きの過誤、その他予期せぬ事態や想定を超えたコストが発生した場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

#### ⑤再就職支援事業について

当社グループの再就職支援事業では、会社都合による企業の退職者または退職予定者に対して、次の再就職先が決定するまでの間、全国の拠点で、職務経歴書作成、面接対策、求人情報の提供、メンタルケアなどの支援を行っております。利用者ごとに担当のコンサルタントを定め、カウンセリング、求人情報の収集・紹介に注力するとともに、再就職支援活動を詳細に把握しアドバイスをすることで早期再就職決定につなげております。サービスレベル向上による取引先からのリピートオーダーの獲得と、積極的な営業活動により新規受注の獲得に努めておりますが、取引先の雇用政策や経済環境の影響を受けやすく、各拠点における受注動向や受注料金水準、再就職決定状況により、収益性が変動する可能性があります。

また、全国的な拠点ネットワークの維持は、求職活動の拠点となる施設を備えた店舗を設置し、コンサルタントを配置して、一定のサービスレベルを維持することを意味しますので、固定費負担も少なくありません。拠点やコンサルタントの配置について、経済環境の変化に応じた機動的な対応ができるとは限らず、拠点ネットワーク維持のための固定費が負担となる可能性があります。今後の経済環境により、再就職決定率が低下したり、再就職決定までの期間が長期化した場合、固定費負担が増加し、収益性が低下することにより、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

#### ⑥福利厚生アウトソーシング事業について

当社グループの福利厚生アウトソーシング事業は、主に企業や官公庁・自治体などが株式会社ベネフィット・ワンと契約することにより法人会員となり、法人会員の従業員が同社と契約関係にあるサービス提供企業の運営する宿泊施設やスポーツクラブ、各種学校等の福利厚生メニューを会員価格で利用できるサービスです。

株式会社ベネフィット・ワンは法人会員から入会金および従業員数に応じた月会費を受受し、従業員が宿泊施設等を利用した際に、加入コースに応じた補助金を支給することがあります。会費収入と補助金支出の割合は一定範囲となるよう注意してバランスをとっておりますが、想定を超える利用がある場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

また、同社は福利厚生事業で培ったサービスインフラを多重的に活用し、新規事業を創出しております。進捗状況を常に把握し、既存の営業網を活用しながら早期育成に取り組んでおりますが、こうした取組みにもかかわらず期待した収益を生まない場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

#### ⑦法的規制について

##### a. エキスパートサービス（人材派遣）事業

###### （イ）事業の許認可について

当社グループのエキスパートサービス事業は、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」（以下、「労働者派遣法」）に基づき、主として一般労働者派遣事業（登録型の人材派遣事業）として厚生労働大臣の許可を取得して行っている事業であります。労働者派遣法は、労働者派遣事業の適正な運営を確保するために、派遣事業を行う者（派遣元事業主）が、派遣元事業主としての欠格事由に該当したり、法令に違反した場合には、事業の許可を取り消し、または事業の停止を命じる旨を定めております。当社グループでは株式会社パソナグループの法務室、コンプライアンス室を中心に適正な派遣取引のためのガイドラインを作成し、徹底して社員教育に努めるとともに、内部監査等により関連法規の遵守状況を日頃より監視し、法令違反等の防止に努めております。しかしながら、万一当社グループ各社および役職員による重大な法令違反等が発生し、事業許可の取り消し、または、事業停止を命じられるようなことがあれば、一般労働者派遣事業を行えなくなることが考えられます。また、労働者派遣法および関係諸法令については、労働市場をとりまく状況の変化等に応じて今後も適宜改正が予想され、その変更内容によっては、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

#### (ロ) 労働者派遣法の改正について

平成27年9月30日付で労働者派遣法が改正され、派遣スタッフ個人単位の派遣期間制限（3年）と、派遣先の事業所単位の期間制限（3年、一定の場合に延長可）が設けられました。加えて、派遣スタッフに対するキャリアアップ措置や、派遣先従業員と派遣スタッフの均衡待遇に配慮すること、さらには派遣スタッフ個人単位の期間制限の上限に達した場合、派遣元事業主が雇用安定を図るための措置を講じることなどが義務付けられました。

当社グループは従来から派遣スタッフの専門性強化に注力し、実務や資格取得に役立つ教育研修プログラムの開発・提供や、キャリア・コンサルティングの拡充を推進しておりますが、雇用安定措置等の今後の運用や、平成25年4月に本格施行された改正労働契約法など諸労働法令の改正および運用状況によっては、エキスパートサービス事業に影響を及ぼす可能性があります。

#### b. 人材紹介事業

当社グループが行う人材紹介事業は、職業安定法に基づき、有料職業紹介事業として厚生労働大臣の許可を受けて行っている事業であります。平成11年12月には、職業安定法の改正を受けて、取扱職業の拡大、紹介手数料制限の緩和および新規学卒者の職業紹介が可能となっているほか、平成12年12月には人材派遣事業と人材紹介事業の兼業規制に関する緩和が行われており、いわゆる紹介予定派遣が可能となっております。

人材紹介事業についても、一定の要件を満たさない場合には人材派遣事業と同様に許可の取消し、事業の停止といった措置が規定されていることから、同様のリスクが想定されます。

#### c. 再就職支援事業

当社グループが行う再就職支援事業は、職業安定法に基づき、有料職業紹介事業として厚生労働大臣の許可を受けて行っている事業であります。収益構造やビジネスモデルは人材紹介事業とは異なりますが、求職者を求人企業に紹介するという点において前述の人材紹介事業と同様の規制、指導および監督を受けることから、同様のリスクが想定されます。

#### ⑧ 社会保険料負担について

当社グループでは、従業員に加えて現行の社会保険制度において社会保険加入対象となる派遣スタッフの完全加入を徹底しております。社会保険料の保険料率や被保険者の範囲等は適宜改定されていることから、社会保険制度の改正に伴って会社負担金額が大幅に上昇する場合、当社グループの財政および業績に影響を受ける可能性があります。

厚生年金保険については、平成16年の年金制度改革により、標準報酬月額に対する会社負担分の料率は平成16年10月時点の6.967%から毎年0.177%ずつ引き上げられ、平成29年以降は9.15%で固定されることとなっております。

また健康保険については、当社グループの従業員および派遣スタッフが属する人材派遣健康保険組合は高齢者加入率が低く、従来の老人保健拠出金は他の健康保険組合に比べ低い水準でした。しかし平成20年4月の医療制度改革において、老人保健拠出金に代わって新たに後期高齢者支援金および前期高齢者納付金の負担が課されたため、人材派遣健康保険組合における健康保険料の会社負担分の料率は30.5/1000（平成19年度）から38.0/1000（平成20年度）へと大幅に引き上げられました。以来、段階的に引き上げられており、平成28年度は46.2/1000になります。

さらに介護保険料率も、平成24年度に8.5/1000（平成23年度）から10.35/1000へと大幅に引き上げられ、平成28年度はさらに11.4/1000に引き上げられました。同健康保険組合の財政は大変厳しい状態にあり、今後さらに保険料率が上昇した場合、収益の圧迫要因となる可能性があります。

雇用保険についても、平成22年4月1日付の制度改正により、雇用保険料率と会社負担分の料率がともに上昇したうえに、雇用保険の適用基準が緩和され、適用範囲が「6か月以上雇用見込み」（平成21年度）から「31日以上雇用見込み」の労働者に拡大しました。平成28年度の一般の事業における会社負担分の料率は平成27年度の8.5/1000から7/1000に引き下げられましたが、今後、雇用保険制度の改正によって保険料率が上昇したり、加入対象者や被保険者数が大幅に増加した場合、収益の圧迫要因となる可能性があります。



#### ⑨当社代表取締役南部靖之およびその近親者の出資する会社との関係について

当社代表取締役南部靖之およびその近親者（同氏の二親等内の親族。以下同じ）、ならびに同氏およびその近親者が議決権の過半数を自己の計算において保有する会社等は、平成28年5月末現在、合わせて当社の議決権の49.68%を保有しておりますが、コーポレートガバナンス体制を十分に機能させることにより、適切な事業運営に努めております。

#### ⑩事業投資について

##### a. 子会社・関連会社への投資

当社グループの関係会社のうち、上場子会社などは市場動向に株価が左右されることもあり、今後の動向によっては関係会社株式の評価替えなどにより、単体の業績や資産の額に影響を与える可能性があります。

当社グループは今後も、取引先や就労者の多様なニーズに応じて事業投資を積極的に行っていく考えであります。新規の事業投資については、進捗状況を常に把握し、既存の事業インフラや営業網も活用しながら、早期育成に取り組んでおりますが、こうした取組みにもかかわらず期待した収益を生まない場合には、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。

##### b. 企業買収について

当社グループは、本業の強化補強を図る有効な手段として、積極的に人材関連の企業買収等に取り組んでいきたいと考えております。買収に当たっては、インハウス系（親会社のグループ、系列企業への人材派遣を主目的に設立された派遣会社）や専門特化した分野で強みを持つ派遣会社および周辺事業分野での有力企業を対象とすることで、当社グループの事業領域の補完、連結収益力の向上を図ってまいりたいと考えております。

こうした企業買収に伴い、多額の資金調達およびのれんの償却等が発生する可能性があるほか、これらの買収が必ずしも当社グループの見込み通りに連結収益に貢献したり、シナジー効果を生むとは限らず、買収した企業の収益性が著しく低下した場合、のれんの減損が生じるなど当社グループの業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

#### ⑪資金調達について

当社グループは、グループCMS（キャッシュ・マネジメント・サービス）によるグループ各社間の資金の有効活用を図っているほか、金融機関との間にコミットメントラインを設定しております。また、資金需要に応じた個別借入れを行うことにより資金を確保していますが、今後の経営状況や金融市場の動向などにより、資金調達に影響が出た場合、当社グループの事業遂行に影響を及ぼす可能性があります。

#### ⑫人材サービス市場について

当社グループは、人材派遣、委託・請負、人材紹介、再就職支援、アウトソーシング、福祉介護、家事代行など人材サービスの総合化を推進し、特定の領域に偏らない事業ポートフォリオの構築を進め、また海外への展開を積極的に行っているほか、雇用のあり方に関する情報発信、啓蒙活動や各種提案に積極的に取り組んでおります。しかし、国内外の景気変動やビジネス環境の変化に伴う顧客の人材需要、採用動向、外部人材の活用や人材育成に関する戦略などの変化の影響を受け、市場環境や顧客需要が急激に変化した場合、収益に影響を受ける可能性があります。また各種関連法令において規制を受ける場合もあり、様々なサービスを拡充することでリスク分散は図ってまいります。当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### ⑬自然災害およびシステム障害等について

当社グループは全国にグループ会社と営業拠点を有しており、地震や水害など大規模な自然災害が発生した場合に備えて、従業員および派遣スタッフの安否を確認し、安全を確保するための対策を危機管理マニュアルに定めております。また、事業拠点や情報システムの機能分散など事業継続のための施策も講じております。しかしながら、想定を大きく上回る規模で自然災害が発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは事業活動や情報管理にITシステムを多用しており、何らかの原因によって大規模なシステム障害が発生した場合、当社グループの事業運営に影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたっての会計基準は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりです。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### ①売上高

当連結会計年度は人材需要が好調に推移したことにより、多くのセグメントで増収となり、売上高は前連結会計年度比37,500百万円増の263,728百万円となりました。

特に、M&Aが寄与したインソーシング(委託・請負)は大幅な伸びとなりました。

#### ②営業利益及び経常利益

売上総利益は、インソーシング、アウトソーシング、キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)の増収などにより、前連結会計年度比6,936百万円増の52,808百万円となりました。

販管費はM&Aや事業領域拡大のための先行投資などにより、前連結会計年度比6,566百万円増の48,948百万円となりましたが、売上高販管費比率は0.1ポイント低下して18.6%となりました。

以上の結果、営業利益は前連結会計年度比370百万円増加の3,860百万円となり、経常利益も前連結会計年度比511百万円増加の3,855百万円と共に増益となりました。

#### ③親会社株主に帰属する当期純利益

税金等調整前当期純利益は前連結会計年度比653百万円増加の3,861百万円となり、法人税等が前連結会計年度比324百万円増加、非支配株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度比298百万円増加した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度比29百万円増加の243百万円となりました。

### (3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

#### ①流動性と資金の源泉

当社グループの所要資金は、大きく分けて店舗及びIT関連設備投資や、子会社・関連会社への投融資資金及び経常の運転資金となっております。これら所要資金のうち、店舗及びIT関連設備投資、出資・貸付等の投融資関連については、適宜、自己資金及びファイナンス・リース、銀行からの長期借入により調達しております。また、経常運転資金については、グループCMSによるグループ資金の有効活用で対応しております。

当連結会計年度の設備投資は総額2,816百万円であり、その主なものは、新規拠点の開設及び既存拠点の改修に伴う建物（建物附属設備を含む）及びリース資産として1,518百万円、基幹業務システム開発・改修に伴うソフトウェア1,298百万円であります。

現状、当社グループでは通常の店舗投資やIT投資等に必要な事業資金は十分に確保されていると認識しており、グループCMSによるグループ資金の有効活用に努め、更に金融機関との間にコミットメントラインを設定すること等により、急な資金需要や不測の事態にも備えております。今後につきましても、主たる事業であるエキスパートサービス、インソーシング事業の業績拡大期には先行的に運転資金が増大するビジネスであること、事業拡大に伴い店舗投資や情報化投資の増加が見込まれること、などを考慮して、十分な流動性を維持していく考えです。

#### ②キャッシュ・フロー

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりです。

#### ③資産、負債及び純資産

##### a. 資産

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて3,285百万円減少（3.7%減）し、85,356百万円となりました。

主な科目の変動は、現金及び預金の減少4,347百万円、受取手形及び売掛金の増加2,456百万円、建物の減少564百万円、のれんの減少401百万円、顧客関係資産の増加465百万円、退職給付に係る資産の減少570百万円であります。

##### b. 負債

当連結会計年度末の負債は、前連結会計年度末に比べて400百万円減少（0.7%減）し、58,621百万円となりました。

主な科目の変動は、買掛金の減少243百万円、未払費用の増加433百万円、未払消費税等の減少3,000百万円、短期借入金の増加889百万円、長期借入金の増加1,387百万円であります。

##### c. 純資産

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末に比べて2,884百万円減少（9.7%減）し、26,735百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益243百万円、非支配株主持分の減少509百万円、為替換算調整勘定の減少166百万円、退職給付に係る調整累計額の減少739百万円、配当金の支払額441百万円、子会社の自己株式の取得及び子会社株式の追加取得等による資本剰余金の減少1,161百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べて1.9ポイント減少して22.2%となりました。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は2,816百万円であり、その内容は既存拠点の配置転換に伴う建物（附属設備を含む）、工具器具備品及びリース資産、新基幹業務システム開発などのソフトウェアであります。

セグメントの名称	建物・ 工具器具備品・ リース資産 (百万円)	土地 (百万円)	ソフトウェア (百万円)	計 (百万円)
エキスパートサービス(人材派遣)、 インソーシング(委託・請負)他	450	—	387	837
キャリアソリューション (人材紹介、再就職支援)	77	—	117	194
アウトソーシング	166	—	653	820
ライフソリューション パブリックソリューション	494	—	5	500
全社	204	124	134	463
計	1,393	124	1,298	2,816

#### 2 【主要な設備の状況】

平成28年5月31日現在における当社グループの主要な設備及び従業員の配置状況は次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物	土地	リース 資産	ソフト ウェア	その他	合計	
グループ総合拠点 (東京都千代田区)	全社	事業所設備	112	—	513	170	67	863	142 (15)
グループ総合拠点 (大阪府大阪市)	全社	事業所設備	408	—	458	3	30	901	31 (7)

- (注) 1 帳簿価額のうち、「その他」は、構築物、工具器具備品等であります。  
 2 帳簿価額の金額には、消費税等を含んでおりません。  
 3 現在休止中の主要な設備はありません。  
 4 従業員数の括弧内は、臨時従業員の雇用人員数であり、外数であります。  
 5 上表のほか、敷金及び保証金1,785百万円があります。

## (2) 国内子会社

会社名 (所在地)	セグメント	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物	土地	リース 資産	ソフト ウェア	その他	合計	
株式会社ベネフィット・ワン (東京都新宿区)	アウトソーシング	事業所 設備等	622	602	165	958	162	2,512	629 (127)
株式会社パソナ (東京都千代田区)	エキスパートサー ビス(人材派 遣)、インソー シング(委託・請 負)他、キャリア ソリューション (人材紹介、再就 職支援)	事業所 設備等	626	1	23	1,223	172	2,046	2,414 (368)
新日本工業株式会社 (三重県松阪市)	インソーシング (委託・請負)	事業所 設備等	591	259	69	8	195	1,125	161 (15)
株式会社ベネフィットワン・ヘル スケア (東京都新宿区)	アウトソーシング	事業所 設備等	11	—	8	456	15	492	104 (61)
パソナ・パナソニック ビジネ スサービス株式会社 (大阪府門真市)	インソーシング (委託・請負)	事業所 設備等	177	65	117	106	25	491	1,230 (31)
ビーウィズ株式会社 (東京都新宿区)	エキスパートサー ビス(人材派 遣)、インソー シング(委託・請 負)他	事業所 設備等	169	—	—	137	130	437	267 (230)
株式会社丹後王国 (京都府京丹後市)	パブリックソリュ ーション	事業所 設備等	36	—	221	0	64	322	47 (57)
キャプラン株式会社 (東京都港区)	エキスパートサー ビス(人材派 遣)、インソー シング(委託・請 負)他	事業所 設備等	30	—	—	135	30	196	256 (50)
株式会社パソナフォスター (東京都千代田区)	ライフソリューシ ョン	事業所 設備等	103	—	—	0	64	168	22 (14)
株式会社ベネフィットワンソリ ューションズ (東京都新宿区)	アウトソーシング	事業所 設備等	0	—	11	137	3	153	14 (3)
株式会社パソナテック (東京都新宿区)	エキスパートサー ビス(人材派 遣)、インソー シング(委託・請 負)他	事業所 設備等	50	—	8	37	7	104	180 (83)

(注) 1 帳簿価額のうち、「その他」は、構築物、車両運搬具、工具器具備品、電話加入権及び建設仮勘定等であり  
ます。

2 株式会社パソナの帳簿価額のうち、15百万円は当社及び連結子会社に賃貸している事業所設備に係るもので  
あります。

3 上表のほかに、敷金及び保証金合計2,925百万円があります。

4 帳簿価額の金額には消費税等を含んでおりません。

5 現在休止中の主要な設備はありません。

6 従業員数の括弧内は、臨時従業員の雇用人員数であり、外数であります。

## (3) 在外子会社

会社名 (所在地)	セグメント	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物	土地	リース 資産	ソフト ウェア	その他	合計	
PT. Dutagriya Sarana (Jakarta, Indonesia)	グローバルソーシ ング (海外人材サ ービス)	事業所 設備等	27	90	—	2	2	122	45 (21)

- (注) 1 帳簿価額のうち、「その他」は、車両運搬具、工具器具備品及びその他の無形固定資産であります。  
2 上表のほかに、敷金及び保証金合計138百万円があります。  
3 帳簿価額の金額には消費税等を含んでおりません。  
4 現在休止中の主要な設備はありません。  
5 従業員数の括弧内は、臨時従業員の雇用人員数であり、外数であります。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設等

会社名 (所在地)	セグメント	設備の内容	投資予定額(百万円)		資金調達 方法
			総額	既支払額	
株式会社ベネフィット・ワン (東京都新宿区)	アウトソーシング	業務系システム	699	—	自己資金

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

## (2) 重要な設備の除却等

拠点の移転及びレイアウト変更に関わる除却等の発生を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成28年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月19日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	41,690,300	41,690,300	東京証券取引所市場第一部	単元株式数は100株であります
計	41,690,300	41,690,300	—	—

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年12月1日	41,273,397	41,690,300	—	5,000	—	5,000

(注) 平成25年12月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で分割しております。

#### (6) 【所有者別状況】

平成28年5月31日現在

区分	株式の状況 (1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	30	26	65	69	12	7,895	8,097	—
所有株式数 (単元)	—	33,646	2,492	48,571	70,947	674	260,541	416,871	3,200
所有株式数 の割合 (%)	—	8.07	0.60	11.65	17.02	0.16	62.50	100.00	—

(注) 1 自己株式4,408,138株は、「個人その他」には44,081単元、「単元未満株式の状況」には38株が含まれております。

2 「金融機関」には、株式給付信託(J-E S O P)が保有する当社株式194,000株(1,940単元)及び株式給付信託(B B T)が保有する当社株式291,000株(2,910単元)が含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成28年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
南部 靖之	兵庫県神戸市	14,763,200	35.41
株式会社南部エンタープライズ	東京都千代田区大手町二丁目6番4号	3,737,800	8.97
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB U.K. (東京都港区六本木六丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	2,078,862	4.99
BNYM TREATY DTT 10 (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286, USA (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,341,800	3.22
CREDIT SUISSE AG HONG KONG TRUST A/C CLIENT (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	LEVEL 88, INTERNATIONAL COMMERCE CENTRE, 1 AUSTIN ROAD WEST, KOWLOON, HONG KONG (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,227,000	2.94
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	711,300	1.71
パソナグループ従業員持株会	東京都千代田区大手町二丁目6番4号	689,300	1.65
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーZ棟	485,000	1.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	433,800	1.04
株式会社サンリオ	東京都品川区大崎一丁目6番1号	396,500	0.95
計	—	25,864,562	62.04

(注) 1 上記のほか、提出会社名義の自己株式4,408,138株(発行済株式総数に対する所有割合10.57%)がありますが、会社法第308条第2項の規定により議決権を有しておりません。

2 当社は「株式給付信託(J-E S O P)」および「株式給付信託(B B T)」を導入しており、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)(以下「信託E口」という)が当社株式485,000株を取得しております。信託E口が所有する当社株式については、自己株式に含めておりません。

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成28年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,408,100	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 37,279,000	372,790	—
単元未満株式	普通株式 3,200	—	—
発行済株式総数	41,690,300	—	—
総株主の議決権	—	372,790	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式給付信託(J-E S O P)が保有する当社株式194,000株(議決権数1,940個)及び株式給付信託(B B T)が保有する当社株式291,000株(議決権数2,910個)が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式38株が含まれております。



② 【自己株式等】

平成28年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社パソナグループ (自己保有株式)	東京都千代田区丸の内 一丁目5番1号	4,408,100	—	4,408,100	10.57
計	—	4,408,100	—	4,408,100	10.57

(注) 株式給付信託（J-E S O P）が保有する当社株式194,000株(0.47%)及び株式給付信託（B B T）が保有する当社株式291,000株(0.70%)は、上記自己株式に含めておりません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

(10) 【従業員株式所有制度の内容】

① 従業員に対する株式給付信託（J-E S O P）の導入

当社は、平成27年10月26日より、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めることを目的として当社従業員ならびに当社子会社の役員及び従業員（以下「従業員等」という。）に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託（J-E S O P）」（以下「J-E S O P制度」という。）を導入しております。

1. J-E S O P制度の概要

J-E S O P制度の導入に際し、「株式給付規程」を新たに制定しております。当社は、制定した株式給付規程に基づき、将来給付する株式を予め取得するために、信託銀行に金銭を信託し、信託銀行はその信託された金銭により当社株式を取得しました。

J-E S O P制度は、株式給付規程に基づき、従業員等にポイントを付与し、そのポイントに応じて、従業員等に株式を給付する仕組みです。

2. 従業員等に給付する予定の株式の総数

194,000株

3. J-E S O P制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

株式給付規程に定める受益者要件を満たす者

② 取締役に対する株式給付信託（B B T）の導入

当社は、平成27年8月19日開催の株主総会決議に基づき、平成27年10月26日より、取締役（社外取締役を除く。以下同じ。）に対する業績連動型株式報酬制度として「株式給付信託（B B T）」（以下、「B B T制度」という。）を導入しております。

1. B B T制度の概要

B B T制度の導入に際し、「役員株式給付規程」を新たに制定しております。当社は、制定した役員株式給付規程に基づき、将来給付する株式を予め取得するために、信託銀行に金銭を信託し、信託銀行はその信託された金銭により当社株式を取得しました。

B B T制度は、役員株式給付規程に基づき、取締役にポイントを付与し、そのポイントに応じて、取締役に株式を給付する仕組みです。

2. 取締役に給付する予定の株式の総数

291,000株

3. B B T制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

取締役を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たす者

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	38	0
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式を含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	9,477	7
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	4,408,138	—	4,398,661	—

(注) 1 株式給付信託(J-E-S-O-P)が保有する当社株式194,000株、及び株式給付信託(B-B-T)が保有する当社株式291,000株は、上記保有自己株式数に含まれておりません。

2 当期間における保有自己株式には、平成28年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式を含めておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、成長過程にある人材ビジネス市場で十分な役割を果たすため、新規事業投資や設備投資などの成長資金を確保しつつ、経営基盤と収益力の強化に努め、企業価値の向上による株主利益の増大を目指しております。また、業績に応じた株主還元を実施することを基本方針として、連結配当性向の目標を25%としておりますが、同時に継続的かつ安定的な配当の維持にも努めてまいります。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としております。法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定款で定めております。

上記の方針に基づき、当期の年間配当金は、1株につき12円(期末配当金12円)となっております。

基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
平成28年7月15日 取締役会	447百万円	12円

#### 4 【株価の推移】

##### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
決算年月	平成24年5月	平成25年5月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月
最高(円)	79,900	82,500	94,800 ※896	843	1,437
最低(円)	53,000	43,300	55,400 ※460	494	542

- (注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。  
2 ※印は、株式分割（平成25年12月1日、1株→100株）による権利落後の株価であります。

##### (2) 【最近6ヶ月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月
最高(円)	969	863	819	847	840	752
最低(円)	835	660	542	646	634	654

- (注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

#### 5 【役員状況】

男性16名 女性3名 (役員のうち女性の比率16%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 グループ 代表 兼 社長	—	南部 靖之	昭和27年1月5日	昭和51年2月 株式会社マンパワーセンター(現株式会社南部エンタープライズ)設立 同社専務取締役 平成3年4月 同社代表取締役 平成4年3月 株式会社テンポラリーサンライズ(現株式会社パソナ) 代表取締役 平成8年3月 株式会社ビジネス・コープ(現株式会社ベネフィット・ワン) 取締役 平成11年4月 株式会社パソナ(現株式会社南部エンタープライズ) 代表取締役社長 平成12年6月 株式会社パソナ代表取締役グループ代表 平成16年8月 同社代表取締役グループ代表兼社長営業総本部長 平成19年12月 同社代表取締役 当社代表取締役グループ代表兼社長 (現任) 平成22年6月 株式会社ベネフィット・ワン取締役会長(現任) 平成23年8月 株式会社パソナ代表取締役会長(現任) 平成24年6月 日本コロムビア株式会社社外取締役(現任)	注5	14,763,200
取締役 会長	—	竹中 平蔵	昭和26年3月3日	平成8年4月 慶應義塾大学総合政策学部教授 平成13年4月 経済財政政策担当大臣、IT担当大臣 平成14年9月 経済財政政策担当大臣、金融担当大臣 平成16年7月 参議院議員 平成16年9月 経済財政政策担当大臣、郵政民営化担当大臣 平成17年10月 総務大臣、郵政民営化担当大臣 平成18年11月 慶應義塾大学教授グローバルセキュリティ研究所所長 平成18年12月 社団法人日本経済研究センター特別顧問 アカデミーヒルズ理事長(現任) 平成19年2月 株式会社パソナ特別顧問、同社アドバイザー ボードメンバー 平成21年8月 当社取締役会長(現任) 平成22年4月 公益社団法人日本経済研究センター研究顧問 (現任) 平成27年6月 オリックス株式会社社外取締役(現任) 平成28年4月 慶應義塾大学名誉教授(現任) 東洋大学国際地域学部教授(現任) 平成28年6月 SBIホールディングス株式会社社外取締役 (現任)	注5	16,600

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	専務執行役員 人事・企画 本部長 兼 社会貢献室担当	深 澤 旬 子	昭和28年5月28日	昭和49年4月 三井東圧化学株式会社（現三井化学株式会社）入社 昭和53年7月 株式会社電通入社 昭和56年9月 株式会社テンポラリーセンター（現株式会社南部エンタープライズ）入社 平成2年1月 同社取締役広報室長 平成12年6月 株式会社パソナ専務執行役員人事企画本部長 平成15年4月 株式会社パソナハートフル代表取締役社長（現任） 平成19年12月 当社取締役専務執行役員人事部・広報室・企画制作室担当兼社会貢献室長 平成27年6月 当社取締役専務執行役員人事・企画本部長兼社会貢献室担当（現任）	注5	185,100
取締役	専務執行役員 事業開発 本部長	山 本 絹 子	昭和30年11月5日	昭和54年2月 株式会社マンパワーセンター（現株式会社南部エンタープライズ）入社 平成2年1月 同社取締役大阪営業本部担当 平成12年6月 株式会社パソナ常務執行役員雇用開発室担当雇用開発室長 平成17年6月 株式会社関西雇用創出機構（現株式会社日本雇用創出機構）代表取締役社長 平成19年12月 当社取締役専務執行役員事業開発部担当 平成24年9月 株式会社パソナふるさとインキュベーション代表取締役社長（現任） 平成27年6月 当社取締役専務執行役員事業開発本部長（現任）	注5	125,800
取締役	専務執行役員 経営企画・総務 本部長	若 本 博 隆	昭和35年11月2日	昭和59年4月 株式会社埼玉銀行（現株式会社りそな銀行、株式会社埼玉りそな銀行）入行 平成元年6月 株式会社テンポラリーセンター（現株式会社南部エンタープライズ）入社 平成18年9月 株式会社パソナ取締役常務執行役員経営企画室長兼法務室・関連会社室・国際業務室担当 平成19年12月 当社取締役常務執行役員経営企画部長兼CMO室・国際業務室担当 平成22年6月 株式会社ベネフィット・ワン取締役（現任） 平成24年7月 当社取締役専務執行役員経営企画部担当 平成27年6月 当社取締役専務執行役員経営企画・総務本部長（現任）	注5	38,300
取締役	常務執行役員 財務経理 本部長	仲 瀬 裕 子	昭和44年10月31日	平成4年4月 株式会社テンポラリーセンター（現株式会社南部エンタープライズ）入社 平成14年8月 株式会社パソナ広報企画部長 平成17年9月 同社執行役員IR室長 平成19年12月 当社執行役員IR室長 平成21年9月 当社常務執行役員IR室長 平成22年6月 株式会社ベネフィット・ワン取締役（現任） 平成22年8月 当社取締役常務執行役員財務経理部・IR室担当 株式会社パソナ取締役常務執行役員財務経理本部長 平成23年8月 同社取締役常務執行役員経理部・財務部担当（現任） 平成27年6月 当社取締役常務執行役員財務経理本部長（現任）	注5	20,500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	常務執行役員コーポレートガバナンス本部長	上 斗 米 明	昭和34年12月19日	昭和58年4月 大蔵省入省 平成7年7月 大蔵省主計局主査 平成9年7月 世界銀行出向 平成21年7月 国税庁長官官房総務課長 平成22年2月 当社執行役員特命担当 平成22年6月 株式会社ベネフィット・ワン取締役(現任) 平成22年8月 当社常務執行役員特命担当 平成25年8月 当社取締役常務執行役員公共戦略事業・特命担当 平成26年8月 当社取締役常務執行役員ヒューマンインキュベーションインスティテュート・特命担当 平成27年6月 当社取締役常務執行役員コーポレートガバナンス本部長(現任) 株式会社川金ホールディングス社外取締役(現任)	注5	1,100
取締役	国際業務本部長	佐 藤 司	昭和45年5月15日	平成12年2月 Pasona International, Inc. (現Pasona NA, Inc.) 入社 平成16年4月 Pasona NA, Inc. 代表取締役社長 平成19年12月 当社常務執行役員国際業務室長 平成21年6月 株式会社パソナ取締役副社長 平成22年3月 株式会社パソナ取締役副社長COOパソナカンパニーカンパニープレジデント 平成23年8月 当社取締役国際業務室担当 株式会社パソナ代表取締役社長(現任) 平成25年1月 株式会社パソナテキーラ代表取締役会長兼社長 平成26年3月 株式会社メディカルアソシア(現株式会社パソナメディカル) 代表取締役社長(現任) 平成27年6月 当社取締役国際業務本部長(現任) 平成28年3月 株式会社パソナサイバーラボ代表取締役社長(現任) 平成28年6月 株式会社パソナテキーラ 代表取締役(現任)	注5	19,200
取締役	—	森 本 宏 一	昭和40年7月3日	平成元年4月 株式会社テンポラリーセンター(現株式会社南部エンタープライズ) 入社 平成10年3月 株式会社パソナテック取締役 平成11年10月 同社代表取締役社長 平成21年8月 当社取締役 平成22年8月 当社取締役情報システム企画部担当 平成24年3月 キャプラン株式会社代表取締役 平成24年4月 同社代表取締役社長(現任) 株式会社パソナテック代表取締役会長(現任) 平成24年6月 株式会社パソナCIO代表取締役社長 平成25年6月 株式会社パソナテキーラ代表取締役会長(現任) 平成27年9月 当社取締役(現任)	注5	40,000
取締役	—	渡 辺 尚	昭和39年12月11日	平成元年4月 株式会社テンポラリーセンター(現株式会社南部エンタープライズ) 入社 平成12年2月 株式会社人材交流システム機構(現株式会社パソナ) 代表取締役社長 平成22年3月 株式会社パソナ取締役副社長COOパソナキャリアカンパニーカンパニープレジデント(現任) 平成22年8月 当社取締役(現任)	注5	52,200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	—	白石 徳生	昭和42年1月23日	平成2年8月 株式会社パソナジャパン（現ランスタッド株式会社）入社 平成5年6月 同社セールスマネージャー 平成8年3月 株式会社ビジネス・コープ（現株式会社ベネフィット・ワン）取締役 平成12年6月 同社代表取締役社長（現任） 平成25年8月 当社取締役（現任）	注5	—
取締役	—	中尾 慎太郎	昭和49年9月11日	平成10年4月 株式会社パソナ入社 平成22年2月 株式会社パソナドゥタンク（現株式会社パソナ）代表取締役社長 平成25年9月 株式会社パソナ取締役執行役員営業総本部ソリューション担当兼ドゥタンク本部長 平成27年8月 同社取締役常務執行役員営業総本部ソリューション担当兼ドゥタンク本部長（現任） 平成28年8月 当社取締役（現任）	注5	4,200
取締役	—	平澤 創	昭和42年3月26日	平成2年4月 任天堂株式会社入社 平成4年10月 株式会社フェイス創業 代表取締役社長（現任） 平成15年3月 株式会社八創代表取締役（現任） 平成16年8月 株式会社パソナ社外取締役 平成19年12月 当社社外取締役（現任） 平成22年4月 コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社（現日本コロムビア株式会社）取締役 取締役会会長 平成22年6月 同社取締役会長（現任） 株式会社ベネフィット・ワン社外取締役 平成26年9月 株式会社GENESIS代表取締役（現任）	注5	6,700
取締役	—	後藤 健	昭和16年3月29日	昭和38年8月 日本アイ・ビー・エム株式会社入社 昭和59年5月 同社取締役管理担当 昭和63年3月 同社常務取締役管理部門担当 平成5年4月 同社専務取締役兼カスタマー・ファイナンシングアジア・パシフィックゼネラルマネジャー 平成13年4月 同社副会長 平成18年4月 同社特別顧問 平成18年6月 コムシスホールディングス株式会社社外監査役 日本コムシス株式会社社外監査役 平成19年5月 日本アイ・ビー・エム株式会社顧問 平成19年12月 当社社外監査役 平成22年6月 株式会社ベネフィット・ワン監査役（現任） 平成24年6月 コムシスホールディングス株式会社社外取締役 平成24年8月 当社社外取締役（現任）	注5	3,200
取締役	—	近藤 誠一	昭和21年3月24日	昭和47年4月 外務省入省 昭和63年7月 同省国際報道課長 平成11年9月 経済協力開発機構（OECD）事務次長 平成15年7月 外務省文化交流部長 平成18年9月 ユネスコ日本政府代表部特命全権大使 平成20年9月 駐デンマーク特命全権大使 平成22年7月 文化庁長官 平成25年7月 文化庁長官退官 平成26年6月 カゴメ株式会社社外取締役（現任） JXホールディングス株式会社社外取締役（現任） 平成26年8月 当社社外取締役（現任）	注5	500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)	—	堺 精 一	昭和26年 8月26日	昭和52年 8月 株式会社マンパワーセンター（現株式会社南部エンタープライズ）入社 昭和62年 4月 同社取締役人事部部長 平成 6年 4月 同社常勤監査役 平成12年 6月 株式会社パソナ執行役員総務部長 平成19年12月 当社執行役員内部統制室長 平成23年 6月 株式会社パソナ常勤監査役 平成25年 8月 当社常勤監査役（現任） 株式会社パソナ監査役（現任）	注 6	45,200
監査役	—	船 橋 晴 雄	昭和21年 9月19日	昭和44年 7月 大蔵省入省 昭和53年 5月 外務省在ベルギー日本国大使館 昭和59年 6月 大蔵省広報室長 平成元年 5月 外務省在フランス日本国大使館 平成 6年 6月 大蔵省副財務官 平成 7年 3月 東京税関長 平成 9年 7月 国税庁次長 平成10年 6月 証券取引等監視委員会事務局長 平成12年 6月 国土庁長官官房長 平成13年 7月 国土交通省国土交通審議官 平成14年 7月 同省退官 平成15年 2月 シリウス・インスティテュート株式会社代表取締役（現任） 平成17年 3月 ケネディクス株式会社社外監査役（現任） 平成18年 6月 鴻池運輸株式会社社外監査役（現任） 平成19年12月 当社社外監査役（現任） 平成21年 6月 第一生命保険株式会社社外取締役（現任） 平成23年11月 株式会社日本雇用創出機構監査役（現任） 平成23年12月 イーピーエス株式会社（現E P Sホールディングス株式会社）社外監査役（現任） 平成27年 6月 日立キャピタル株式会社社外取締役（現任）	注 6	8,300
監査役	—	松 浦 晃 一 郎	昭和12年 9月29日	昭和34年 4月 外務省入省 昭和63年 7月 外務省経済協力局長 平成 2年 1月 外務省北米局長 平成 6年 8月 外務省在フランス日本国大使 平成10年11月 世界遺産委員会議長 平成11年11月 外務省退官 ユネスコ事務局長 平成21年11月 ユネスコ事務局長退任 平成22年11月 公益財団法人日仏会館理事長 平成23年 8月 当社社外監査役（現任） 平成25年 1月 パリ日本文化会館支援協会理事長（現任） 平成25年 6月 一般社団法人アフリカ協会会長（現任） 平成26年 5月 公益財団法人関信越音楽協会代表理事（現任）	注 6	4,100
監査役	—	野 村 周 央	昭和41年 9月 3日	平成 4年 4月 総務庁入庁 平成14年11月 司法試験合格 平成16年10月 弁護士登録（第一東京弁護士会）堀裕法律事務所（現堀総合法律事務所）入所 平成21年 6月 株式会社新銀行東京社外監査役（現任） 平成22年 1月 堀総合法律事務所パートナー（現任） 平成24年 8月 当社社外監査役（現任）	注 6	600
計						15,334,800

- (注) 1 取締役平澤創、後藤健、近藤誠一の3氏は、社外取締役であります。
- 2 監査役船橋晴雄、松浦晃一郎、野村周央の3氏は、社外監査役であります。
- 3 株式会社東京証券取引所に対し、平澤創、後藤健、近藤誠一、船橋晴雄、松浦晃一郎、野村周央の6氏を独立役員とする独立役員届出書を提出しております。
- 4 当社では、執行役員制度を導入しております。執行役員は取締役5名を含め、11名で構成されております。
- 5 取締役の任期は、平成28年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役の任期は、平成27年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

- 7 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選出しております。

補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
野村和史	昭和30年3月15日	昭和52年4月 株式会社マンパワーセンター（現株式会社南部エンタープライズ）入社 昭和57年11月 同社大手町支店支店長 昭和60年1月 同社東京本社東京営業部長 昭和60年4月 同社取締役 平成11年9月 同社常務取締役東日本営業本部長 平成12年6月 株式会社パソナ常務執行役員関東営業部長 平成13年6月 エヌエスパーソナルサービス株式会社（現株式会社パソナ）代表取締役社長 平成22年4月 同社代表取締役会長 平成25年5月 株式会社パソナ特別顧問 平成25年8月 同社常勤監査役（現任）	44,900

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「社会の問題点を解決する」という企業理念のもと、『人を活かす』ことを人材サービスの原点とし、常に高い志と使命感を持って、新たな社会インフラを構築し、果敢に挑戦し続けることを使命としています。

こうした企業理念・企業としての社会的使命に共感いただける、株主をはじめとする、当社ステークホルダー（利害関係者）に対して、企業価値の継続的な向上を実現することは、企業としての基本的使命でもあります。

当社グループは、常に、社会から「必要とされる会社」であり、働く人々に「真の“ソーシャル・ワーク・ライフ・バランス”を提言する会社」、顧客企業に「信頼と安心感を持たれる会社」、従業員が「自信と誇りを持ってチャレンジできる会社」であり続けなければなりません。

そのためにも、コーポレート・ガバナンスの強化を推進し、遵法精神と高い倫理観に基づいたマネジメントを常に意識して実行してまいります。

業界のリーディングカンパニーとしての自覚を持ち、当社グループ及び業界全体の社会的信用を高める努力を継続していくことは、ステークホルダーに対する責任を果たすと同時に、当社の事業基盤をより強固にし、企業価値を向上させるものであると確信しております。

なお、コーポレート・ガバナンスの状況につきましては、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」を上場証券取引所及び当社ホームページ上に掲載し、一般に公開するとともに、記載内容の更新を随時行っております。

#### ② 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

##### a. 会社の機関の基本説明

当社は、「監査役会設置会社」形態を採用しておりますが、経営に対する監視・監督機能の強化については、「監査役体制」、「取締役会と執行役員制」、「社外取締役・社外監査役の選任」等を通して、実質的にその機能を果たしているものと考えております。また、有価証券報告書提出日現在、取締役会を取締役15名（男性12名・女性3名）のうち社外取締役3名、監査役4名のうち社外監査役3名と役員32%を社外役員で構成することにより、取締役会の監視機能を強化しております。

内部統制に関する主要機関は以下のとおりです。

##### イ 取締役会

平成28年5月31日現在、取締役14名（うち社外取締役3名）で構成しており、第9期における取締役会は17回開催しております。

##### ロ 監査役会

平成28年5月31日現在、監査役4名（うち社外監査役3名）で構成しており、第9期における監査役会は13回開催しております。



ハ 経営会議

全社的に影響を及ぼす重要事項については、多面的な検討を経て慎重に審議を行うために、原則として月2回、常勤取締役及び常勤監査役で組織する経営会議にて審議しています。

ニ 執行役員制度

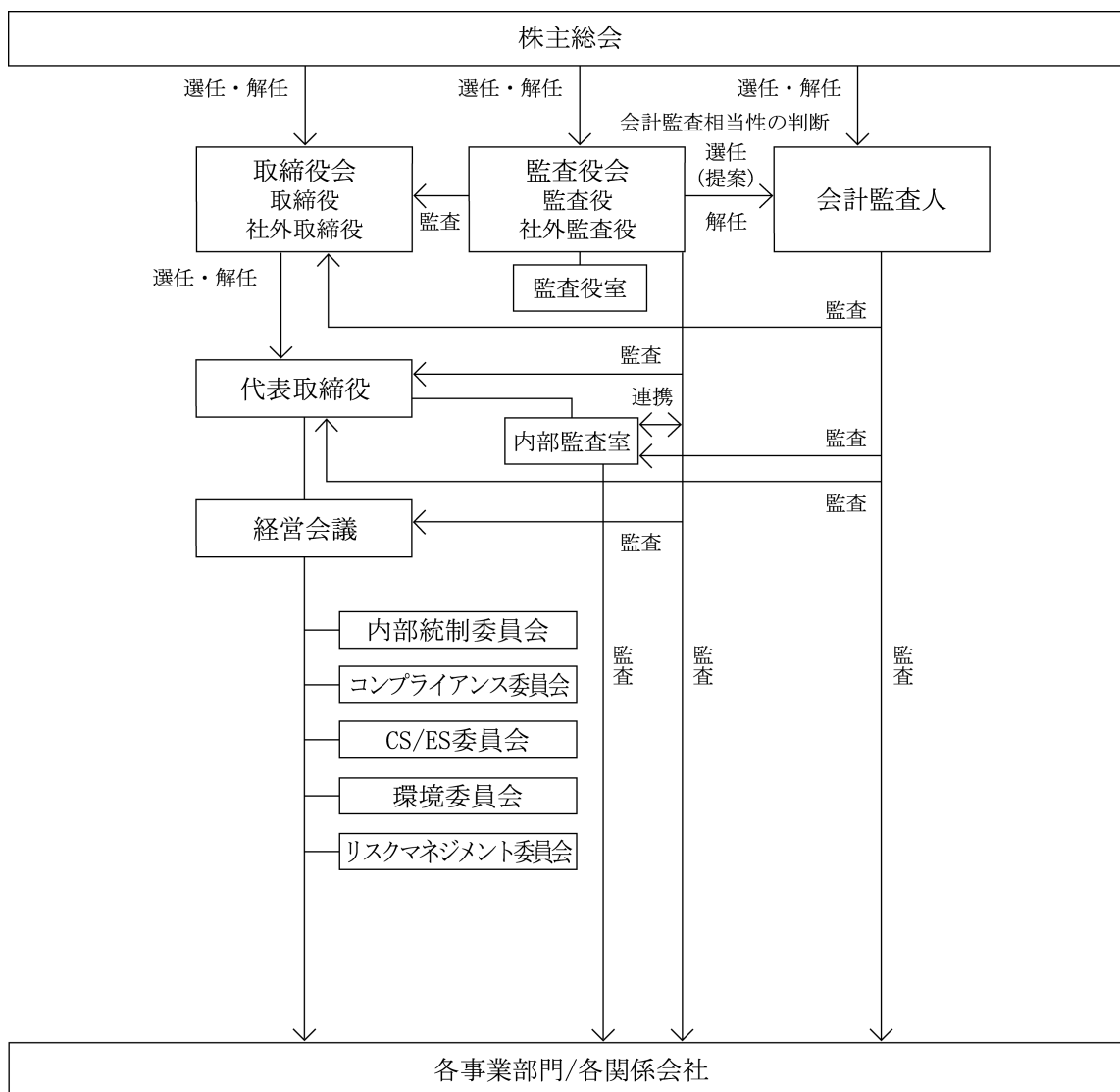
監督と執行の分離を進めていく体制として、執行役員制度を導入しています。

ホ 内部統制委員会 他

経営会議の下部組織及び代表取締役直轄組織として、内部統制やリスク管理、また顧客満足度の向上などの具体的な施策を実施するため、次の5つの委員会を部門横断的に設けております。

- (i) 内部統制委員会
- (ii) コンプライアンス委員会
- (iii) CS/ES委員会
- (iv) 環境委員会
- (v) リスクマネジメント委員会

『コーポレート・ガバナンスおよび内部管理体制図』



b. 内部統制システムの整備の状況

イ 当社及び子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- (i) 企業行動憲章を制定し、当社及び子会社の役職員に対して、企業行動憲章により定められている企業活動の根本理念を十分に理解させることにより、法令等遵守の意識の徹底を図る。
- (ii) 当社及び子会社の取締役が、法令・定款を遵守すること、ならびに企業理念に則った行動を取るよう、各社の取締役会及び経営会議等を通じて監視し、徹底を図る。
- (iii) 当社及び子会社の役職員が日々の業務を行うにあたり遵守すべき基本的な行動基準を定め、当社及び子会社のコンプライアンス推進のための活動・統制を行う組織としてコンプライアンス委員会を設置する。また、コンプライアンス委員会の活動概要は定期的に取締役会に報告する。
- (iv) 当社はパソナグループ全体を対象とする内部通報制度を設け、内部通報窓口を社内及び社外に設置し、パソナグループの使用人等からの通報による、組織的または個人に関わる法令に違反する恐れのある重大な事実等の未然の防止、早期把握に取り組む。
- (v) 内部監査室はパソナグループ各社に対し内部監査を実施し、業務遂行の適正性、妥当性ならびに適法性を監査し内部統制の向上を図る。
- (vi) 当社は、企業行動憲章に基づき、反社会的勢力に対して毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。また、不当要求等への対応を所管する部署を定めるとともに、事案発生時の報告及び対応に係る規程等の整備を行い、警察等関連機関とも連携し毅然と対応する。
- (vii) 当社と利害関係を有しない社外取締役を選任し、取締役の相互監視・監督機能を強化することにより、適法性を確保する。
- (viii) 常勤監査役ならびに当社と利害関係を有しない社外監査役による監視を行う。

ロ 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の意思決定または取締役に対する報告に用いる重要な文書の作成、保存及び廃棄については制定された文書管理規程に基づき、実行されるよう徹底を図る。

ハ 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (i) 当社及び主要な子会社は危機管理について定められたリスクマネジメント規程により管理を行うとともに、役職員全員に危機管理マニュアルの概要を配布することにより徹底を図る。
- (ii) リスクマネジメント体制における最高責任者はグループ代表とする。リスクに関する統括管理は当社及び主要な子会社に設置されたリスクマネジメント委員会が行い、コーポレートガバナンス本部の担当役付執行役員をリスクに関する統括責任者として指名する。
- (iii) リスクマネジメント委員会は、危機管理マニュアルに基づいて予め具体的なリスクを想定・分類し、有事の際には迅速かつ適切な情報伝達が行えるよう、整備を行って置く。
- (iv) 当社の内部監査室は、当社及び子会社の各部署の日常的なリスク管理状況の監査を実施する。

ニ 当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (i) 当社及び子会社の各取締役の職務執行については、各社において組織規程により業務分掌、職務権限を定め、これにより責任の明確化ならびに効率的な業務の遂行を図る。
- (ii) 当社は定例取締役会を月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催する。また、常勤の取締役及び監査役が出席する経営会議において、業務執行に関する経営課題を審議する。
- (iii) 子会社は会社の規模に応じて定例取締役会を毎月もしくは少なくとも四半期に1回以上開催するよう取締役会規程を定めており、当社の経営企画部が開催状況を定期的に確認する。また、子会社は必要に応じて臨時取締役会を開催する。
- (iv) 当社及び子会社の取締役会は、経営の執行方針、法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項を決定し、業務執行状況を監督する。

ホ 当社ならびに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

上記イ～ニに掲げる事項のほか、

- (i) 子会社の取締役または監査役を当社から子会社に派遣し、取締役会への出席及び監査役による監査を通じて経営の状況を把握し、監督する。
- (ii) 子会社（上場会社を除く）とグループ経営契約を締結し、取締役等の職務執行に係る重要事項について当社が報告を受ける体制とする。
- (iii) 当社の内部監査室は当社及び子会社の内部監査を実施し、その結果を常勤取締役及び常勤監査役が出席する内部監査報告会に報告し、状況に応じて必要な管理を行う。
- (iv) 財務報告の適正性確保のため、当社の内部統制委員会は内部統制委員会規程に基づき、内部統制評価計画の策定、内部統制室が実施する内部統制評価のモニタリングを行い、内部統制報告書を作成し、取締役会へ提出する。

へ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役室を設置し、監査役室の要員が専任の補助使用人として監査役の職務の補助を行う。

ト 前号の使用人の取締役からの独立性及び監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- (i) 監査役の補助使用人は当社の業務執行に係る役職を兼務せず、監査役の指揮命令下で職務を遂行する。
- (ii) 監査役の補助使用人の人事異動・人事評価・懲戒処分には、監査役会の事前承認を得る。

チ 当社及び子会社の取締役及び使用人が当社の監査役に報告するための体制及び当社または子会社の監査役に報告をした者が報告をしたことを理由として不利益を受けないことを確保するための体制

- (i) 当社及び子会社の取締役及び使用人は、会社の信用を著しく低下させる事項及び会社の業績を著しく悪化させる事項が発生し、または発生する恐れがあるとき、役職員による違法または不正な行為を発見したときは速やかに所属する会社の監査役に報告を行うこととし、その徹底を図る。子会社において、監査役がこれらの報告を受けた場合は、ただちに当社の監査役へ報告する。  
また、当社及び子会社において内部通報制度による通報があった場合、ただちに当社の監査役へ報告される。
- (ii) 第1項の報告者に対し、報告を理由とした不利益な取扱いを行わない旨を当社及び子会社のコンプライアンス・ホットライン規程に定めて徹底する。

リ 監査役の職務の執行について生ずる費用の処理の方針その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (i) 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続き、その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理は、監査役からの申請に基づき適切に行う。
- (ii) 監査役は、代表取締役社長、会計監査人、内部監査室、監査役室及び子会社監査役と連携を強め、定期的かつ必要に応じて随時意見交換会を開催する。

(当社の運用状況)

#### 1. 内部統制システム全般

当社及び子会社の内部統制システム全般の整備・運用状況を当社の内部監査室、内部統制室及び内部統制委員会（当事業年度は4回開催）がモニタリングし、改善を進めております。また、内部統制室及び内部統制委員会は金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の有効性の評価」を行っております。

当社の内部監査室は、子会社に対し、業務遂行の適正性、妥当性、適法性を確保するために、監査計画に基づき内部監査を実施しております。その監査結果については、取締役、監査役及び執行役員に報告し、再発防止策の協議を行っております。

## 2. コンプライアンス

グループの全役職員の行動指針として「パソナグループ企業行動憲章」を定め、役職員に対しての階層別の定期的なコンプライアンス研修を実施しております。また、当社及び子会社全体で共有する「コンプライアンス・マニュアル」を制定し、コンプライアンスの徹底という基本原則をより確実に実施することを目的として、「パソナグループ行動規範」を規定しております。

法令遵守体制の点検・強化を当社のコンプライアンス委員会（当事業年度は12回開催）が中心となって実施し、当社及び子会社におけるコンプライアンス体制・状況等について、取締役会への報告を行っております。「社会の問題点を解決する」という企業理念のもと、社会的責任（CSR）を果たすために、コンプライアンス委員会で当社及び子会社のコンプライアンスに関する課題の把握とその対応策の立案・実施をしており、重要な法令違反が発生した場合もしくは発生のおそれがある場合には、当該子会社と連携し、調査・是正・勧告措置を実施しております。

法令違反・不正行為等の早期発見及びそれらを未然に防止することで当社の社会的信頼を維持することを目的とし、パソナグループ・コンプライアンス・ホットライン規程を制定し、当社内部監査室及び第三者機関を窓口とした内部通報制度「パソナグループ・コンプライアンス・ホットライン」を当社ならびに国内及び海外子会社に設置しており、通報内容がただちに当社の常勤監査役に報告される体制を整備しております。また、パソナグループ・コンプライアンス・ホットライン規程に通報者が不利益を受けない旨を規定しております。

## 3. リスク管理

当社の危機管理に関する基本的事項について定め、経営に重大な影響を及ぼす危機を未然に防止すること、及び万一発生した場合の被害の極小化を図ることを目的として、リスクマネジメント規程を制定し、当社グループのリスクに関する統括組織、リスクマネジメント委員会（当事業年度は2回開催）を設置しております。

危機管理マニュアルに基づき、予めリスクマネジメント委員会が具体的なリスクを一元的に想定・分類し、重要リスクを特定することにより、リスクの未然防止とともに万一発生した場合の迅速かつ的確な対応を図っております。また、災害を想定した訓練も適宜行っております。

## 4. 子会社経営管理

子会社の経営管理につきましては、当社の経営企画部にて子会社の経営管理体制を整備、統括するとともに、子会社（上場会社を除く）との間で締結した「グループ経営契約」に則り、同契約が定める事前協議事項について、それぞれの当社の主管部門が、子会社から事前に承認申請または報告を受ける体制を整えております。

また、子会社が行う重要な業務執行については、当社の取締役会及び経営会議で審議・報告を実施しております。

当社の内部監査室は、子会社に対する監査を実施しており、グループ経営に対応した効率的なモニタリングを実施しております。

## 5. 取締役の職務執行

「パソナグループ企業行動憲章」や役員取扱規程等の社内規程を制定し、取締役が法令及び定款に則って行動するように徹底しており、組織規程に業務分掌、職務権限を定め、これにより責任の明確化ならびに効率的な業務の遂行を図っております。

法令で定められた事項及び経営に関する重要事項については、事前に経営会議にて議論したうえで、取締役会に付議しております。当事業年度においては、取締役会は17回開催されており、活発な議論・意見交換がなされ、意思決定及び監督の実効性確保に努めております。また、社外取締役を複数名選任し、かつ、取締役会等を通じて社外取締役から積極的な発言が行われる機会を設けることで、監督機能を強化しております。

## 6. 監査役

社外監査役を含む監査役は、取締役会への出席及び常勤監査役による経営会議及びその他の重要会議への出席を通じて、内部統制委員会や内部統制に係る組織が担当する内部統制の整備、運用状況を確認しております。また、会計監査人、内部統制室及び内部監査室などの内部統制に係る組織と必要に応じて双方向的な情報交換を実施することで、当社の内部統制システム全般をモニタリングするとともに、より効率的な運用について助言を行っております。

専任の補助使用人が所属する監査役室を監査役会の直轄下に設置し、執行部門の組織から分離させており、補助使用人の異動、処遇等の人事事項は監査役と事前協議のうえ、実施しております。

### c. 内部監査及び監査役監査の状況

#### イ 内部監査

社長直属の内部監査室（人員：2名）が内部監査規程に基づき、法令及び社内諸規程の遵守状況を監視し、業務上の不正・過誤による不測の事態の発生を防ぐとともに、業務の改善と経営効率の向上等を目的として内部監査を実施しております。また、内部統制システムの構築・運用状況のチェックについては内部監査室、内部統制室及び内部統制委員会にて行っております。

また常勤監査役は、内部監査結果について個別の内部監査報告書の報告を受けるとともに、原則として四半期毎に開催される内部監査報告会に出席し、内部監査室長からの報告を受け、また別途、内部監査室長と月1回情報交換会を定例的に開催し、社内業務の適正化、コンプライアンス遵守状況の確認、業務改善、指導事項を共有化しております。加えて、監査役監査方針計画と、内部監査方針等につき、緊密な情報交換を実施しております。

#### ロ 監査役監査

当社の監査役会は、常勤監査役1名と社外監査役3名の4名で構成されております。監査役は、取締役会等の重要な会議への出席、取締役からの事業報告の聴取及び関係会社に対する会計監査、重要な文書・帳票等の閲覧、会計監査人の監査方法が相当であるかの監査、内部監査室との定例会議等の監査活動により、業務執行状況全般を監視しており、監査結果は取締役会に対し文書または口頭で報告、必要に応じて助言または是正の勧告を行う場合があります。なお、監査役補助者として監査役室（人員：2名）を設置しております。

なお、社外監査役の船橋晴雄氏は、大蔵省及び国税庁等の経験及び長年にわたる複数社での監査役の経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

#### ハ 会計監査

当社の会計監査人であり、有限責任監査法人トーマツ及び当社監査に従事する業務執行社員と当社の間には、特別の利害関係はありません。当社は監査法人との間で監査契約書を締結し、それに基づき報酬を支払っております。第9期において業務を執行した公認会計士の氏名については以下のとおりです。

業務を執行した公認会計士の氏名

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員：國井泰成氏、大橋武尚氏

（注）継続監査年数は、7年を超えておりません。

監査業務に係る補助者の構成

監査業務に係る補助者の構成については、公認会計士7名及びその他監査従事者15名を構成員として、監査法人の監査計画に基づき、決定されております。

### d. リスク管理体制の整備の状況

上述の「内部統制システムの整備の状況」に記載された「当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制」を整備しております。

e. 役員報酬の内容

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	274	274	—	10
監査役 (社外監査役を除く)	14	14	—	1
社外役員	41	41	—	6

- (注) 1 取締役の報酬限度額は、平成20年8月20日開催の第1期定時株主総会において、年額600百万円以内と定められております。  
 2 監査役の報酬限度額は、平成20年8月20日開催の第1期定時株主総会において、年額50百万円以内と定められております。

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は、役員に対する報酬等の額を、平成20年8月20日開催の第1期定時株主総会で決議いただいた報酬限度額の範囲内で、役位、立場、役割、会社への貢献度等を勘案して決定しております。なお、取締役の報酬は、事前に社外取締役に具体的な報酬総額の算出方法等を説明し、意見を勘案して決定しております。

平成20年8月20日開催の第1期報酬限度額は、取締役については年額総額600百万円(うち社外取締役分は年額総額50百万円)、監査役については年額総額50百万円となっております。また、平成27年8月19日開催の第8期定時株主総会において、上記報酬限度額とは別枠で、中長期的な業績ならびに企業価値の向上への貢献意識を高めることを目的として、取締役(社外取締役を除く)に対し業績連動型株式報酬制度を導入し、連続する5事業年度(当初は平成28年5月末日で終了する事業年度から平成32年5月末日で終了する事業年度とし、以降、信託が終了するまでの各5事業年度)ごとに信託へ拠出する取締役等への報酬額は合計800百万円(1事業年度あたりのポイント数の合計は260,000ポイント)を上限とする旨が決議されております。

f. 株式の保有状況

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額（投資株式計上額）が最も大きい（最大保有会社）株式会社パソナグループについては以下のとおりであります。

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 9銘柄  
 貸借対照表計上額の合計額 644百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (数)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンプホールディングス株式会社	100	0	業務調査及び情報収集のため
株式会社リクルートホールディングス	100	0	業務調査及び情報収集のため

(注) 保有目的が純投資目的である株式で、当事業年度中に保有目的を変更した株式はありません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (数)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンプホールディングス株式会社	300	0	業務調査及び情報収集のため
株式会社リクルートホールディングス	100	0	業務調査及び情報収集のため

(注) 保有目的が純投資目的である株式で、当事業年度中に保有目的を変更した株式はありません。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額（投資株式計上額）が最大保有会社の次に大きい株式会社ベネフィット・ワンについては以下のとおりであります。

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 9銘柄  
 貸借対照表計上額の合計額 633百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (数)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
日本社宅サービス株式会社	389,000	353	業務提携による競争力の強化・切替防止・情報収集のため
株式会社データホライズン	250,000	239	資本業務提携による商品力強化・顧客基盤拡充のため
株式会社リロ・ホールディング	200	2	業界動向の情報収集のため

(注) 保有目的が純投資目的である株式で、当事業年度中に保有目的を変更した株式はありません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (数)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
日本社宅サービス株式会社	389,000	305	業務提携による競争力の強化・切替防止・情報収集のため
株式会社データホライズン	250,000	213	資本業務提携による商品力強化・顧客基盤拡充のため
株式会社リロ・ホールディング	200	3	業界動向の情報収集のため

(注) 保有目的が純投資目的である株式で、当事業年度中に保有目的を変更した株式はありません。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

- g. 社外取締役等の人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係の概要  
 当社は、社外取締役及び社外監査役との間には、下記以外の利害関係はありません。

平成28年5月31日現在

区分	氏名	兼職先法人等名	兼職の内容	関係
社外取締役	平澤 創	株式会社フェイス	代表取締役社長	—
		株式会社八創	代表取締役	—
		日本コロムビア株式会社	取締役会長	—
		株式会社GENESIS	代表取締役	—
	後藤 健	株式会社ベネフィット・ワン	社外監査役	子会社
		コムシスホールディングス株式会社	社外取締役	—
	近藤 誠一	近藤文化・外交研究所	代表	—
		カゴメ株式会社	社外取締役	—
		JXホールディングス株式会社	社外取締役	—
社外監査役	船橋 晴雄	シリウス・インスティテュート株式会社	代表取締役	—
		ケネディクス株式会社	社外監査役	—
		鴻池運輸株式会社	社外監査役	—
		第一生命保険株式会社	社外取締役	—
		株式会社日本雇用創出機構	社外監査役	子会社
		EPSホールディングス株式会社	社外監査役	—
		日立キャピタル株式会社	社外取締役	—
	松浦 晃一郎	公益財団法人日仏会館	理事長	—
		パリ日本文化会館支援協会	理事長	—
		一般社団法人アフリカ協会	会長	—
		公益財団法人関信越音楽協会	代表理事	—
	野村 周央	株式会社新銀行東京	社外監査役	—
		堀総合法律事務所	パートナー	—

- h. 社外取締役及び社外監査役

提出日現在、当社の社外取締役は3名、社外監査役は3名であり、役員（取締役、監査役）の総数に占める社外役員比率は32%であります。

社外取締役については、当社取締役会などにおける経営の意思決定プロセスにおいて、これまでの豊富な経験、知見に基づき、客観的かつ多角的な見地からの意見を得られると判断し、就任いただいております。

社外監査役については、客観的な視点ならびに立場の意見を得ること、及びこれまでの豊富な経験、知識に基づく適正な監査を実施願うため、就任いただいております。

社外取締役の平澤創氏は、日本コロムビア株式会社の取締役会長であり、同社の社外取締役に当社代表取締役の南部靖之氏が就任しております。

社外監査役の野村周央氏が所属する堀総合法律事務所との間で顧問契約及び業務委託契約を締結しておりますが、野村周央氏はこれらの契約の業務に関与はされておられません。

平澤創氏、野村周央氏と当社の当該関係につきましては、以上のとおりその内容については社外取締役及び社外監査役（以下、社外役員といいます）としての独立性に影響を与えるような重要なものとは看做されないと判断しております。

なお、上記2氏を除くほかの社外役員との間につきましても人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係はございません。



当社の社外役員及び社外役員候補者は、当社が定める以下の独立性の基準を満たす者としており、社外役員6名全員を独立役員としております。

- ・ 2親等以内の親族が、現在または過去において、当社または子会社の業務執行取締役として在籍していないこと。
- ・ 現在、業務執行者・使用人として在籍する会社と当社グループにおいて取引がある場合、過去3事業年度において、その取引金額が当社の連結売上高の2%を超えないこと。
- ・ 過去3事業年度において、法律、会計もしくは税務の専門家またはコンサルタントとして、当社グループから直接的に1,000万円を超える報酬（当社の役員としての報酬及び当該社外役員が属する機関・事務所に支払われる報酬は除く。）を受けていないこと。
- ・ 過去3事業年度において、当社グループから年間1,000万円を超える寄付等を受ける組織の業務執行者ではないこと。

また、社外取締役による監督につきましては、取締役会における意思決定のプロセスならびに執行の監督、内部統制委員会の報告の聴取等を通じて行われ、社外監査役による監査は、監査役会への内部監査室長及び監査役室長の報告、会計監査人による四半期レビュー及び期末監査報告の聴取ならびに意見陳述、取締役への直接の説明聴取、社外取締役との意見交換等を通じ相互に連携を図って行われております。

i. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待された役割を十分発揮できるようにするため、会社法第426条第1項に基づき、同法第423条第1項の取締役（取締役であったものを含む。）及び監査役（監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

j. 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、取締役（業務執行取締役等である者を除く。）及び監査役との間において、同法第423条第1項の損害賠償責任について、取締役（業務執行取締役等である者を除く。）は480万円と同法第425条第1項各号の額の合計額とのいずれか高い額、監査役は同法第425条第1項各号の額の合計額を限度とする契約を締結することができる旨を定款に定めており、竹中平蔵氏、白石徳生氏、及び社外役員と上記契約を締結しております。

k. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって決する旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

l. 取締役の定数

当社は、当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

m. 株主総会の特別決議

当社は、株主総会の円滑な運営を行なうため、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決する旨を定款に定めております。

n. 剰余金の配当等の決定機関

当社は、機動的な資本政策及び配当政策が遂行できるよう、剰余金の配当等会社法第459条第1項に定める事項については、法令に特段の定めがある場合を除き、取締役会決議によって定めることとする旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	63	—	67	—
連結子会社	53	—	71	—
合計	116	—	139	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社Pasona Taiwan Co., Ltd.他2社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているデロイト トウシュ トーマツに対して、監査業務に係る報酬を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社Pasona Taiwan Co., Ltd.他2社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているデロイト トウシュ トーマツに対して、監査業務に係る報酬を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社では、監査公認会計士等の監査計画・監査内容、監査に要する時間等を十分に考慮し、適切に監査報酬額を決定しています。

## 第5 【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成27年6月1日から平成28年5月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成27年6月1日から平成28年5月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容の適切な把握及び会計基準の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、同機構が行う研修等に参加し、適時適切に情報収集を実施し、当社グループ各社で共有しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,123	16,775
受取手形及び売掛金	29,531	31,987
有価証券	203	—
たな卸資産	※1 1,007	※1 1,074
繰延税金資産	1,330	1,411
未収還付法人税等	438	548
その他	4,558	4,445
貸倒引当金	△64	△55
流動資産合計	58,129	56,187
固定資産		
有形固定資産		
建物	※2 8,978	※2,4 8,818
減価償却累計額	△4,510	△4,915
建物（純額）	4,467	3,903
土地	1,953	※4 1,977
リース資産	4,529	4,752
減価償却累計額	△2,469	△3,169
リース資産（純額）	2,059	1,582
その他	※2 5,210	※2,4 5,349
減価償却累計額	△3,920	△4,089
その他（純額）	1,290	1,259
有形固定資産合計	9,770	8,722
無形固定資産		
のれん	4,884	4,483
ソフトウェア	3,487	※2 3,516
リース資産	75	44
顧客関係資産	1,223	1,689
その他	130	128
無形固定資産合計	9,801	9,861
投資その他の資産		
投資有価証券	※3 2,845	※3 3,022
長期貸付金	127	107
退職給付に係る資産	1,430	859
繰延税金資産	735	854
敷金及び保証金	4,879	4,849
その他	967	942
貸倒引当金	△45	△51
投資その他の資産合計	10,940	10,584
固定資産合計	30,512	29,169
資産合計	88,641	85,356

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,217	4,974
短期借入金	3,972	※4 4,861
リース債務	714	1,060
未払金	5,283	5,436
未払費用	12,576	13,010
未払法人税等	1,425	1,603
未払消費税等	6,248	3,248
前受収益	2,037	2,035
賞与引当金	2,814	3,214
役員賞与引当金	25	25
資産除去債務	50	4
その他	5,900	5,719
流動負債合計	46,267	45,195
固定負債		
長期借入金	7,419	8,807
リース債務	1,568	863
退職給付に係る負債	1,692	1,705
繰延税金負債	567	474
資産除去債務	842	938
その他	662	637
固定負債合計	12,753	13,426
負債合計	59,021	58,621
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	6,068	5,023
利益剰余金	13,370	13,172
自己株式	△3,899	△4,016
株主資本合計	20,539	19,179
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	206	97
為替換算調整勘定	271	104
退職給付に係る調整累計額	316	△422
その他の包括利益累計額合計	794	△221
非支配株主持分	8,286	7,776
純資産合計	29,620	26,735
負債純資産合計	88,641	85,356

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月 31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月 31日)
売上高	226,227	263,728
売上原価	180,355	210,919
売上総利益	45,871	52,808
販売費及び一般管理費	※1 42,381	※1 48,948
営業利益	3,490	3,860
営業外収益		
受取利息	30	49
補助金収入	86	147
不動産賃貸料	56	43
その他	137	167
営業外収益合計	310	407
営業外費用		
支払利息	161	170
持分法による投資損失	92	49
コミットメントフィー	41	46
その他	161	146
営業外費用合計	457	412
経常利益	3,343	3,855
特別利益		
固定資産売却益	※2 0	※2 18
投資有価証券売却益	—	129
受取補償金	90	—
持分変動利益	0	—
固定資産受贈益	—	17
特別利益合計	91	164
特別損失		
固定資産除売却損	※3 66	※3 72
投資有価証券評価損	14	25
減損損失	※4 124	※4 37
その他	21	22
特別損失合計	225	158
税金等調整前当期純利益	3,208	3,861
法人税、住民税及び事業税	2,155	2,437
法人税等調整額	△87	△45
法人税等合計	2,067	2,391
当期純利益	1,141	1,469
非支配株主に帰属する当期純利益	927	1,226
親会社株主に帰属する当期純利益	214	243

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
当期純利益	1,141	1,469
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	210	△148
為替換算調整勘定	191	△181
退職給付に係る調整額	1	△737
持分法適用会社に対する持分相当額	10	△4
その他の包括利益合計	※1 413	※1 △1,072
包括利益	1,555	397
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	524	△771
非支配株主に係る包括利益	1,030	1,168

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,000	6,054	13,402	△3,827	20,629
会計方針の変更による 累積的影響額			206		206
会計方針の変更を反映 した当期首残高	5,000	6,054	13,608	△3,827	20,836
当期変動額					
剰余金の配当			△374		△374
親会社株主に帰属する 当期純利益			214		214
自己株式の取得				△72	△72
自己株式の処分					—
株式給付信託による 自己株式の取得					—
連結範囲の変動			△78		△78
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動					—
連結子会社の増資に よる持分の増減					—
その他		13			13
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	13	△238	△72	△296
当期末残高	5,000	6,068	13,370	△3,899	20,539

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	82	70	314	467	6,083	27,181
会計方針の変更による 累積的影響額				—		206
会計方針の変更を反映 した当期首残高	82	70	314	467	6,083	27,388
当期変動額						
剰余金の配当				—		△374
親会社株主に帰属する 当期純利益				—		214
自己株式の取得				—		△72
自己株式の処分				—		—
株式給付信託による 自己株式の取得				—		—
連結範囲の変動				—		△78
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動				—		—
連結子会社の増資に よる持分の増減				—		—
その他				—		13
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	123	201	1	326	2,202	2,528
当期変動額合計	123	201	1	326	2,202	2,231
当期末残高	206	271	316	794	8,286	29,620



当連結会計年度(自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,000	6,068	13,370	△3,899	20,539
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,000	6,068	13,370	△3,899	20,539
当期変動額					
剰余金の配当			△441		△441
親会社株主に帰属する当期純利益			243		243
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		116		382	499
株式給付信託による自己株式の取得				△499	△499
連結範囲の変動					—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△1,149			△1,149
連結子会社の増資による持分の増減		△12			△12
その他					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	△1,045	△197	△116	△1,359
当期末残高	5,000	5,023	13,172	△4,016	19,179

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	206	271	316	794	8,286	29,620
会計方針の変更による累積的影響額				—		—
会計方針の変更を反映した当期首残高	206	271	316	794	8,286	29,620
当期変動額						
剰余金の配当				—		△441
親会社株主に帰属する当期純利益				—		243
自己株式の取得				—		△0
自己株式の処分				—		499
株式給付信託による自己株式の取得				—		△499
連結範囲の変動				—		—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動				—		△1,149
連結子会社の増資による持分の増減				—		△12
その他				—		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△109	△166	△739	△1,015	△509	△1,525
当期変動額合計	△109	△166	△739	△1,015	△509	△2,884
当期末残高	97	104	△422	△221	7,776	26,735

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,208	3,861
減価償却費	2,554	3,293
減損損失	124	37
のれん償却額	938	1,000
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△9	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	223	374
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1	△28
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△567	△516
受取利息及び受取配当金	△48	△63
支払利息	161	170
補助金収入	△86	△147
持分法による投資損益 (△は益)	92	49
固定資産除売却損益 (△は益)	66	53
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△120
投資有価証券評価損益 (△は益)	14	25
売上債権の増減額 (△は増加)	△273	△1,971
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△164	△6
その他の資産の増減額 (△は増加)	△816	△71
営業債務の増減額 (△は減少)	△806	42
未払消費税等の増減額 (△は減少)	4,280	△2,986
その他の負債の増減額 (△は減少)	1,699	△52
その他	93	△102
小計	10,686	2,840
利息及び配当金の受取額	60	73
利息の支払額	△173	△161
補助金の受取額	102	147
法人税等の支払額	△2,088	△2,417
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,587	482

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月 31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月 31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	112	682
有形固定資産の取得による支出	△1,228	△1,165
有形固定資産の売却による収入	1	908
無形固定資産の取得による支出	△1,520	△1,367
投資有価証券の取得による支出	△402	△615
投資有価証券の売却による収入	1	331
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △1,115	※2 △670
子会社株式の取得による支出	△29	—
貸付けによる支出	△9	△54
貸付金の回収による収入	19	75
敷金及び保証金の差入による支出	△571	△388
敷金及び保証金の回収による収入	352	449
事業譲受による支出	△25	△288
その他	△229	△74
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,645	△2,176
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△816	10
長期借入れによる収入	5,100	6,500
長期借入金の返済による支出	△4,702	△4,437
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△690	△731
社債の償還による支出	△52	△56
非支配株主からの払込みによる収入	15	185
自己株式の取得による支出	△64	※3 △499
自己株式の売却による収入	—	※3 499
子会社の自己株式の取得による支出	—	△1,464
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△1,060
配当金の支払額	△373	△440
非支配株主への配当金の支払額	△420	△531
その他	—	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,004	△2,024
現金及び現金同等物に係る換算差額	170	△159
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,107	△3,877
現金及び現金同等物の期首残高	18,021	20,298
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	169	20
現金及び現金同等物の期末残高	※1 20,298	※1 16,441

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### ①連結子会社の状況

a. 連結子会社の数 58社

b. 主要な連結子会社の名称

株式会社パソナ  
株式会社ベネフィット・ワン  
ビーウィズ株式会社  
株式会社パソナテック  
キャプラン株式会社  
パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社

c. 新規連結 7社

設立：

株式会社パソナビズナイズ  
株式会社ベネフィットワン・ペイロール  
株式会社パソナナレッジパートナー

株式取得：

株式会社スマートスタイル  
株式会社パソナOGXA  
PT. Dutagriya Sarana

持分法適用関連会社からの変更：

株式会社パソナテキーラ (注) 1

d. 連結除外 1社

株式会社パソナランゲージ (注) 2

(注) 1 株式会社パソナテキーラは、支配力基準により実質的に支配されていると認められるようになったため、第1四半期連結会計期間末より持分法適用関連会社から連結子会社に変更し、連結の範囲に含めております。

2 株式会社パソナランゲージは、当社の連結子会社である株式会社パソナと合併し、消滅しております。

#### ②非連結子会社の状況

a. 非連結子会社の数 14社

b. 主要な非連結子会社の名称

株式会社DFマネジメント  
一般社団法人ディレクトフォース  
株式会社イーディーワン

c. 連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### ①持分法適用会社の状況

a. 持分法適用会社の数 4社

b. 持分法適用会社の名称

株式会社イー・スタッフィング  
株式会社全国試験運営センター  
株式会社パソナサイバーラボ  
Chunghwa Benefit One Co., Ltd.

上記のうち、株式会社パソナサイバーラボは、当連結会計年度においてTquila International PTE Ltdと当社との共同出資により設立したため、同社を持分法の適用の範囲に含めております。

また、株式会社パラダイムシフトは、当社の連結子会社である株式会社ベネフィット・ワンの保有する全株式の売却を行ったため、当連結会計年度より持分法の適用の範囲から除外しております。

## ②持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社

- a. 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の数 15社
- b. 主要な持分法を適用しない  
非連結子会社及び関連会社の名称 株式会社DFマネジメント  
一般社団法人ディレクトフォース  
株式会社イーディーワン
- c. 持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用の範囲から除外しております。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

株式会社パソナ、株式会社パソナテックほか9社の決算日は、連結決算日と一致しております。

ビーウィズ株式会社については連結納税制度への加入に伴い、当連結会計年度より、決算日を3月末日から5月末日に変更し、連結決算日と同一となっております。この決算期変更に伴い、当連結会計年度における会計期間は14ヶ月となっております。

Pasona Human Resources (Shanghai) Co.,Ltd.、PT. Dutagriya Sarana、Pasonatech Consulting (Dalian) Co.,Ltd.、Benefit One Shanghai Inc.、Benefit One USA, Inc.、Benefit One Asia Pte. Ltd.、Benefit One (Thailand) Co., Ltd.、PT. BENEFIT ONE INDONESIA及びBenefit One Deutschland GmbHの決算日は12月末日であり、連結財務諸表の作成にあたっては、3月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

その他の連結子会社37社の決算日は3月末日であり、連結財務諸表の作成にあたっては、決算日現在の財務諸表を使用しております。

なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な修正を行っております。

## 4. 会計方針に関する事項

### ①重要な資産の評価基準及び評価方法

#### a. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの：決算日の市場価額等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの：移動平均法による原価法

#### b. デリバティブ取引により生ずる債権及び債務

時価法

#### c. たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

商品：主に移動平均法

貯蔵品：最終仕入原価法

### ②重要な減価償却資産の減価償却の方法

#### a. 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(附属設備を含む)及び構築物：定額法

(ただし、平成28年3月31日以前に取得した建物附属設備及び構築物は定率法)

その他の有形固定資産：主に定率法

#### b. 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア：社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法

顧客関係資産：その効果の発現する期間(8~10年)に基づく定額法

#### c. リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### ③重要な繰延資産の処理方法

株式交付費：支出時に全額費用として処理しております。

### ④重要な引当金の計上基準

#### a. 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### b. 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### c. 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

### ⑤退職給付に係る会計処理の方法

#### a. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

#### b. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は発生年度の翌連結会計年度に一括損益処理することとしております。

#### c. 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

### ⑥のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却についてはその効果の発現する期間(5～10年)を見積もり、均等償却を行っております。のれんの金額が僅少なものについては、発生時に一括償却をしております。

### ⑦連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない、取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

### ⑧その他連結財務諸表作成のための重要な事項

#### a. 重要なヘッジ会計の方法

##### イ. ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしているため、金利スワップは特例処理によっております。

##### ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：金利スワップ

ヘッジ対象：借入金

##### ハ. ヘッジ方針

金利等の相場変動リスクの軽減、資金調達コストの低減、または将来のキャッシュ・フローを最適化するためにデリバティブ取引を行っております。短期的な売買差益の獲得や投機を目的とするデリバティブ取引は行わない方針であります。

##### ニ. ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動とヘッジ手段の相場変動を半期毎に比較し、両者の変動額を基礎にして、ヘッジの有効性を評価することとしております。なお、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、ヘッジの有効性の評価を省略しております。

#### b. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

#### c. 連結納税制度の適用

当社及び一部の連結子会社は、連結納税制度を適用しております。

(会計方針の変更)

1. 平成25年9月13日改正の「企業結合に関する会計基準」等の適用

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58－2項(4)、連結会計基準第44－5項(4)及び事業分離等会計基準第57－4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ115百万円増加しております。また、当連結会計年度末の資本剰余金が1,161百万円減少しております。

当連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

なお、当連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結財務諸表等におけるキャッシュ・フロー計算書の作成に関する実務指針第26－4項に定める経過的な取扱いに従っており、比較情報の組替えは行っておりません。

当連結会計年度の連結株主資本等変動計算書の資本剰余金の期末残高は1,161百万円減少しております。

また、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

2. 平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法へ変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)

#### 1. 概要

繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いについて、監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」の枠組み、すなわち企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積る枠組みを基本的に踏襲した上で、以下の取扱いについて必要な見直しが行われております。

- ① (分類1) から (分類5) に係る分類の要件をいずれも満たさない企業の取扱い
- ② (分類2) 及び (分類3) に係る分類の要件
- ③ (分類2) に該当する企業におけるスケジューリング不能な将来減算一時差異に関する取扱い
- ④ (分類3) に該当する企業における将来の一時差異等加減算前課税所得の合理的な見積可能期間に関する取扱い
- ⑤ (分類4) に係る分類の要件を満たす企業が (分類2) 又は (分類3) に該当する場合の取扱い

#### 2. 適用予定日

平成29年5月期の期首より適用予定であります。

#### 3. 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「有形固定資産の売却による収入」及び、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「非支配株主からの払込みによる収入」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」△227百万円は、「有形固定資産の売却による収入」1百万円、「その他」△229百万円として組み替えております。また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」15百万円は、「非支配株主からの払込みによる収入」15百万円として組み替えております。

(追加情報)

#### 1. 株式給付信託 (J-E S O P)

当社は、平成27年10月26日より、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めることを目的として当社従業員ならびに当社子会社の役員及び従業員(以下「従業員等」という。)に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託 (J-E S O P)」(以下「J-E S O P制度」という。)を導入しております。

##### (1) 取引の概要

J-E S O P制度の導入に際し、「株式給付規程」を新たに制定しております。当社は、制定した株式給付規程に基づき、将来給付する株式を予め取得するために、信託銀行に金銭を信託し、信託銀行はその信託された金銭により当社株式を取得しました。

J-E S O P制度は、株式給付規程に基づき、従業員等にポイントを付与し、そのポイントに応じて、従業員等に株式を給付する仕組みです。

企業会計基準委員会が公表した「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)を適用し、J-E S O P制度に関する会計処理としては、信託の資産及び負債を企業の資産及び負債として貸借対照表に計上する総額法を適用しております。

##### (2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、199百万円及び194,000株であります。



- (3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額  
該当事項はありません。

## 2. 株式給付信託（BBT）

当社は、平成27年8月19日開催の株主総会決議に基づき、平成27年10月26日より、取締役（社外取締役を除く。以下同じ。）に対する業績連動型株式報酬制度として「株式給付信託（BBT）」（以下、「BBT制度」という。）を導入しております。

### (1) 取引の概要

BBT制度の導入に際し、「役員株式給付規程」を新たに制定しております。当社は、制定した役員株式給付規程に基づき、将来給付する株式を予め取得するために、信託銀行に金銭を信託し、信託銀行はその信託された金銭により当社株式を取得しました。

BBT制度は、役員株式給付規程に基づき、取締役にポイントを付与し、そのポイントに応じて、取締役に株式を給付する仕組みです。

企業会計基準委員会が公表した「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成27年3月26日）を参考に取締役に対しても同取扱いを読み替えて適用し、BBT制度に関する会計処理としては、信託の資産及び負債を企業の資産及び負債として貸借対照表に計上する総額法を適用しております。

### (2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、299百万円及び291,000株であります。

- (3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額  
該当事項はありません。

### (連結貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
商品	797	720
貯蔵品	101	121
仕掛品	73	195
製品	19	19
原材料	14	16

※2 国庫補助金等の受入れにより取得価額から控除した固定資産の圧縮記帳額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
圧縮記帳額	93	93
（うち、建物）	8	8
（うち、その他の有形固定資産）	85	84
（うち、ソフトウェア）	—	0

※3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
投資有価証券(株式)	875	867
(うち、共同支配企業に対する投資の金額)	(0)	(16)

※4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
建物	—	20
土地	—	90
その他の有形固定資産	—	0
計	—	111

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
短期借入金	—	86
計	—	86

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)
従業員給与及び賞与等	18,752	21,086
賞与引当金繰入額	1,778	1,894
役員賞与引当金繰入額	28	25
福利厚生費	3,888	4,582
退職給付費用	△171	△46
募集費	1,148	1,441
賃借料	4,011	4,405
減価償却費	1,572	1,960
貸倒引当金繰入額	9	6
のれん償却額	938	1,000

※2 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)
売却益	0	18
建物	—	26
土地	—	△20
その他の有形固定資産	0	12

当連結会計年度において、同一取引により複数の固定資産を売却し、建物の一部については売却益、土地については売却損が発生しているため、売却損益を相殺して固定資産売却益を計上しております。

※3 固定資産除売却損の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
除却損	65	65
建物	52	35
その他の有形固定資産	5	5
ソフトウェア	8	24
売却損	0	6
建物	0	—
土地	—	6
その他の有形固定資産	0	0

※4 減損損失の内訳は、次のとおりであります。

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

1. 減損損失を計上した主な資産グループの概要

場所	用途	種類
東京都千代田区	基幹システム	ソフトウェア
Shanghai, China	事業用設備	ソフトウェア 工具器具備品
San Jose, USA	事業用設備	ソフトウェア 工具器具備品等

2. 減損損失に至った主な経緯

一部の基幹システムについて開発計画を見直したことに伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。また、各事業用設備については営業活動から生じる損益が継続してマイナスであり、減損の兆候が認められたため、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、その減少額を減損損失として計上しております。

3. 減損損失の金額

(単位：百万円)

種類	金額
ソフトウェア	96
建物	11
工具器具備品	9
その他の有形固定資産	6
合計	124

4. 資産のグルーピングの方法

当社グループは、原則として独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として法人を基本単位として資産のグルーピングをしております。また、将来の使用見込みがなく、廃棄される可能性が高いものについては、処分予定資産としてグルーピングしております。

5. 回収可能価額の算定方法

上記資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しておりますが、売却可能性が見込めないため零としております。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

1. 減損損失を計上した主な資産グループの概要

場所	用途	種類
東京都千代田区	基幹システム	ソフトウェア

2. 減損損失に至った主な経緯

次期基幹システムについて開発計画を見直したことに伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

3. 減損損失の金額

(単位:百万円)

種類	金額
ソフトウェア	37

4. 資産のグルーピングの方法

当社グループは、原則として独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として法人を基本単位として資産のグルーピングをしております。また、将来の使用見込みがなく、廃棄される可能性が高いものについては、処分予定資産としてグルーピングしております。

5. 回収可能価額の算定方法

上記資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しておりますが、売却可能性が見込めないため零としております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	286	△93
組替調整額	—	△104
税効果調整前	286	△197
税効果額	△75	48
その他有価証券評価差額金	210	△148
為替換算調整勘定		
当期発生額	191	△181
退職給付に係る調整額		
当期発生額	464	△608
組替調整額	△486	△464
税効果調整前	△22	△1,073
税効果額	24	335
退職給付に係る調整額	1	△737
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	10	△4
その他の包括利益合計	413	△1,072

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計 年度末株式数 (株)
普通株式	41,690,300	—	—	41,690,300

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計 年度末株式数 (株)
普通株式	4,765,957	127,143	—	4,893,100

(注) 自己株式の増加株式数の内訳は、平成26年7月23日の取締役会の決議による自己株式の取得127,143株であります。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成26年7月11日 取締役会	普通株式	374百万円	10円	平成26年5月31日	平成26年8月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成27年7月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	441百万円	12円	平成27年5月31日	平成27年8月20日

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計 年度末株式数 (株)
普通株式	41,690,300	—	—	41,690,300

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計 年度末株式数 (株)
普通株式	4,893,100	485,038	485,000	4,893,138

- (注) 1 当連結会計年度末の自己株式(普通株式)には、株式給付信託(J-E S O P)が保有する当社株式194,000株及び株式給付信託(B B T)が保有する当社株式291,000株が含まれております。
- 2 自己株式(普通株式)の株式数の増加のうち、485,000株は株式給付信託(J-E S O P)及び株式給付信託(B B T)の取得による増加であり、38株は単元未満株式の買取りによる増加であります。
- 3 自己株式(普通株式)の株式数の減少485,000株は、株式給付信託(J-E S O P)及び株式給付信託(B B T)への第三者割当による自己株式処分による減少であります。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成27年7月15日 取締役会	普通株式	441百万円	12円	平成27年5月31日	平成27年8月20日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成28年7月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	447百万円	12円	平成28年5月31日	平成28年8月22日

(注) 「配当金の総額」には、株式給付信託(J-E S O P)及び株式給付信託(B B T)が保有する当社株式485,000株に対する配当金5百万円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
現金及び預金勘定	21,123	16,775
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△1,028	△334
有価証券(MMF)	203	-
現金及び現金同等物	20,298	16,441

※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

株式の取得により新たにパソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社（以下、パソナ・パナソニック ビジネスサービス）を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにパソナ・パナソニック ビジネスサービスの取得価額とパソナ・パナソニック ビジネスサービス取得のための支出（純増）との関係は次のとおりであります。

流動資産	3,670百万円
固定資産	2,130百万円
のれん	818百万円
流動負債	△3,414百万円
固定負債	△335百万円
非支配株主持分	△687百万円
<hr/>	
パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式の取得価額	2,183百万円
パソナ・パナソニック ビジネスサービスの現金及び現金同等物	1,067百万円
<hr/>	
差引：パソナ・パナソニック ビジネスサービス取得のための支出	1,115百万円

前連結会計年度末において、企業結合日における識別可能資産及び負債の特定を精査中であり、取得原価の配分は完了しておらず暫定的な会計処理を行っていましたが、当連結会計年度に取得原価の配分が完了いたしました。

取得原価配分後の、株式の取得により新たにパソナ・パナソニック ビジネスサービスを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにパソナ・パナソニック ビジネスサービスの取得価額とパソナ・パナソニック ビジネスサービス取得のための支出（純増）との関係は次のとおりであります。

流動資産	3,692百万円
固定資産	2,897百万円
のれん	586百万円
流動負債	△3,492百万円
固定負債	△695百万円
非支配株主持分	△804百万円
<hr/>	
パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式の取得価額	2,183百万円
パソナ・パナソニック ビジネスサービスの現金及び現金同等物	1,067百万円
<hr/>	
差引：パソナ・パナソニック ビジネスサービス取得のための支出	1,115百万円

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

重要な事項はありません。

※3 「追加情報」に記載のとおり、「株式給付信託（J-E S O P）」及び「株式給付信託（B B T）」の導入に伴う自己株式の売却による収入ならびに、同制度の導入に伴う当社株式の取得による支出を含んでおります。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引 (借主側)

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

主として建物 (附属設備を含む) であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 ②重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

建物 (附属設備を含む) であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 ②重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引 (借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
1年内	3,203	3,176
1年超	5,645	3,289
合計	8,848	6,466

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達についてはグループCMS (キャッシュ・マネジメント・サービス) によるグループ資金の有効活用を図る一方で金融機関からの借入も行っております。また、資金運用については、その対象を十分な流動性を有する安全性の高い短期の預金等に限定しております。なお、デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券は、大半が取引先企業との業務または資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されている有価証券も一部ございます。

営業債務である買掛金及び未払費用は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に運転資金及び設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。ヘッジの有効性の評価方法は、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

営業債権に係る信用リスクについては、各社の社内規程に従い、期日・残高管理を行いつつスクリーニングも行っております。回収懸念先については月次の与信会議にて信用状況を把握する体制としております。



## ②市場リスクの管理

長期借入金の金利変動リスクについては、分割弁済によりその影響を緩和するとともに、当社財務経理部において管理しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っております。

上場株式会社については、四半期ごとに時価の把握を行うとともに、非上場株式会社については発行企業の財務状況を把握したうえで取引企業との関係を勘案しつつ保有状況の見直しをしております。

## ③流動性リスクの管理

当社財務経理部ではグループ月次預金残高報告を受けるとともに、グループCMSにより各社の流動性リスクを随時管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価額に基づく価額のほか、市場価額のない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注)2を参照ください)。

前連結会計年度(平成27年5月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	21,123	21,123	—
(2) 受取手形及び売掛金	29,531	29,531	—
(3) 有価証券 その他有価証券	203	203	—
(4) 未収還付法人税等	438	438	—
(5) 投資有価証券 その他有価証券	1,283	1,283	—
(6) 敷金及び保証金	4,879	4,866	△12
資産計	57,459	57,447	△12
(1) 買掛金	5,217	5,217	—
(2) 短期借入金	3,972	3,972	—
(3) 未払金	5,283	5,283	—
(4) 未払費用	12,576	12,576	—
(5) 未払法人税等	1,425	1,425	—
(6) 未払消費税等	6,248	6,248	—
(7) 長期借入金	7,419	7,362	△57
(8) リース債務	2,283	2,216	△66
負債計	44,426	44,302	△124
(9) デリバティブ取引	—	—	—

当連結会計年度（平成28年5月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	16,775	16,775	—
(2) 受取手形及び売掛金	31,987	31,987	—
(3) 有価証券 その他有価証券	—	—	—
(4) 未収還付法人税等	548	548	—
(5) 投資有価証券 その他有価証券	1,153	1,153	—
(6) 敷金及び保証金	4,849	4,849	—
資産計	55,314	55,314	—
(1) 買掛金	4,974	4,974	—
(2) 短期借入金	4,861	4,861	—
(3) 未払金	5,436	5,436	—
(4) 未払費用	13,010	13,010	—
(5) 未払法人税等	1,603	1,603	—
(6) 未払消費税等	3,248	3,248	—
(7) 長期借入金	8,807	8,704	△102
(8) リース債務	1,923	1,937	14
負債計	43,866	43,777	△88
(9) デリバティブ取引	—	—	—

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 有価証券、(4) 未収還付法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 投資有価証券

これらは全て株式であり、その時価は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

- (6) 敷金及び保証金

主としてオフィスの賃借時に差し入れている敷金・保証金であり、償還予定時期を見積り、安全性の高い長期の債券の利回りで割り引いた現在価値を算定しております。

なお、当連結会計年度末において、安全性の高い長期の債券の利回りがマイナスの場合は、適用する割引率を零としております。その結果、時価と当該帳簿価額との間に差額は発生していません。

## 負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金、(4) 未払費用、(5) 未払法人税等、(6) 未払消費税等  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### (7) 長期借入金

変動金利による借入については、短期間で市場金利を反映しており、また、当社の信用状態は実行後大きく変化していないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

固定金利による借入については、元利金の合計額を残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

### (8) リース債務

元利金の合計額を残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、連結貸借対照表上、流動負債に計上されているリース債務と固定負債に計上されているリース債務を合算した金額となっております。

### (9) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成27年5月31日	平成28年5月31日
非上場株式	1,562	1,869

これらについては、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度（平成27年5月31日）

(単位：百万円)

科目	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	21,123	—	—	—
受取手形及び売掛金	29,531	—	—	—
敷金及び保証金	1,927	2,643	307	0
合計	52,583	2,643	307	0

当連結会計年度（平成28年5月31日）

(単位：百万円)

科目	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	16,775	—	—	—
受取手形及び売掛金	31,987	—	—	—
敷金及び保証金	1,252	3,188	408	0
合計	50,014	3,188	408	0

(注) 4 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（平成27年5月31日）

(単位：百万円)

科目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	3,972	3,411	2,006	1,081	920	—
リース債務	714	636	557	354	19	1
合計	4,687	4,048	2,564	1,435	939	1

当連結会計年度（平成28年5月31日）

(単位：百万円)

科目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	120	—	—	—	—	—
長期借入金	4,741	3,333	2,409	1,748	778	539
リース債務	1,060	409	287	89	58	17
合計	5,922	3,743	2,697	1,837	836	556

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度（平成27年5月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	811	330	481
	債券	361	290	70
	その他	108	80	27
	小計	1,282	702	579
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	1	1	△0
	小計	1	1	△0
合計		1,283	704	579

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額1,562百万円）については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

当連結会計年度（平成28年5月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	541	298	242
	債券	340	290	49
	その他	97	80	16
	小計	980	670	309
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	1	1	△0
	債券	172	197	△24
	小計	173	198	△25
合計		1,153	869	283

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額1,869百万円）については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	1	—	—
合計	1	—	—

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	233	104	—
合計	233	104	—

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

前連結会計年度（平成27年5月31日）

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	5,685	2,225	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成28年5月31日）

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	9,685	4,151	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。一部の国内連結子会社は、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設け、もしくは中小企業退職金共済制度に加入しております。また、一部の海外連結子会社は、確定給付型の制度を設けております。

従業員の退職等に対して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務制度の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
退職給付債務の期首残高	2,553	2,842
会計方針の変更による累積的影響額	△318	—
会計方針の変更を反映した期首残高	2,235	2,842
勤務費用	301	343
利息費用	28	29
数理計算上の差異の発生額	103	229
退職給付の支払額	△131	△141
簡便法から原則法への移行	302	—
その他	4	36
退職給付債務の期末残高	2,842	3,338

### (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
年金資産の期首残高	3,107	3,915
期待運用収益	62	78
数理計算上の差異の発生額	567	△378
事業主からの拠出額	278	288
退職給付の支払額	△108	△117
その他	6	—
年金資産の期末残高	3,915	3,786

### (3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,129	1,335
退職給付費用	59	283
退職給付の支払額	△59	△199
制度への拠出額	△41	△119
その他	248	△6
退職給付に係る負債の期末残高	1,335	1,293

### (4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成27年5月31日)	(平成28年5月31日)
積立型制度の退職給付債務	3,528	3,968
年金資産	4,581	4,502
	△1,053	△534
非積立型制度の退職給付債務	1,315	1,380
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	262	845
退職給付に係る負債	1,692	1,705
退職給付に係る資産	1,430	859
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	262	845

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

## (5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
勤務費用	301	343
利息費用	28	29
期待運用収益	△62	△78
数理計算上の差異の費用処理額	△486	△464
簡便法で計算した退職給付費用	59	253
その他	0	△17
確定給付制度に係る退職給付費用	△160	66

## (6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
数理計算上の差異	△22	△1,073
合計	△22	△1,073

## (7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
未認識数理計算上の差異	464	△608
合計	464	△608

## (8) 年金資産に関する事項

## ①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
債券	32%	51%
株式	58%	41%
現金及び預金	0%	0%
その他	10%	8%
合計	100%	100%

## ②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
割引率	1.0%	0.2%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%
予想昇給率	1.5%	1.4%

## 3. 確定拠出制度

当連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度55百万円、当連結会計年度65百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
繰延税金資産		
繰越欠損金	1,667	2,014
減価償却	318	396
賞与引当金	916	997
貸倒引当金	44	43
退職給付に係る負債	549	554
資産除去債務	284	297
関係会社株式売却益	74	70
関係会社株式評価損	100	95
未払事業所税	126	113
未払事業税	138	161
ポイント引当金	127	135
その他	557	694
繰延税金資産小計	4,902	5,573
評価性引当額	△2,099	△2,540
繰延税金資産合計	2,803	3,032
繰延税金負債との相殺	△736	△767
繰延税金資産の純額	2,066	2,265
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△141	△50
退職給付に係る資産	△467	△270
資産除去債務	△72	△86
海外子会社の留保利益金	△131	△116
顧客関係資産	△396	△565
その他	△95	△155
繰延税金負債合計	△1,304	△1,244
繰延税金資産との相殺	736	767
繰延税金負債の純額	△567	△476

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
流動資産－繰延税金資産	1,330	1,411
固定資産－繰延税金資産	735	854
流動負債－繰延税金負債	－	△2
固定負債－繰延税金負債	△567	△474



2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	(単位：%)	
	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
法定実効税率	35.64	33.06
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.66	3.09
住民税均等割額	6.57	5.67
評価性引当額	△1.01	12.42
のれん償却	7.97	6.75
持分法による投資損益	1.03	0.42
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.18	0.08
税制変更による影響額	11.68	0.44
その他	△0.93	0.01
税効果会計適用後の法人税等の負担率	64.43	61.94

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の32.30%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年6月1日から平成30年5月31日までのものは30.86%、平成30年6月1日以降のものについては30.62%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が24百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が18百万円、その他有価証券評価差額金が2百万円それぞれ増加、退職給付に係る調整累計額が9百万円減少しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

主にオフィスの不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から2～39年と見積り、割引率は0.0～2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
期首残高	854	893
有形固定資産の取得に伴う増加額	57	141
連結子会社取得に伴う増加額	55	9
時の経過による調整額	9	11
資産除去債務の履行による減少額	△82	△113
期末残高	893	942

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額は重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、人材派遣・請負、人材紹介、再就職支援、福利厚生アウトソーシングなどの人材関連事業を行っており、提供するサービスの特性から、報告セグメントを「エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）他」、「キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）」、「アウトソーシング」の3つとしております。また、当社は持株会社としてグループ経営戦略の策定と業務遂行支援、経営管理と経営資源の最適配分の実施、雇用創造に係わる新規事業開発等を行っております。

なお、当連結会計年度より、従来「エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）他」に含まれていたプレース&サーチ（人材紹介）を「アウトプレースメント（再就職支援）」と統合し、「キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）」に変更しております。

当社グループは、人材紹介事業及び再就職支援事業に係る経営資源配分等の経営意思決定についてこれらの事業を一体として捉えており、サービスの類似性も考慮した結果、1つの報告セグメントとすることが合理的であると判断したことによるものであります。

前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分により作成しており、「3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」の前連結会計年度に記載しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「〔注記事項〕連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価額に基づいております。

「会計方針の変更」に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

なお、当該変更によるセグメント利益に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				計	その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	連結 財務諸表 計上額
	HRソリューション								
	エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他 (注) 1	キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	アウトソーシング						
売上高									
外部顧客への売上高	186,080	14,163	21,364	221,609	4,617	226,227	—	226,227	
セグメント間の内部売上高又は振替高	903	32	278	1,214	815	2,030	△2,030	—	
計	186,984	14,196	21,643	222,824	5,433	228,257	△2,030	226,227	
セグメント利益又は損失(△)	2,485	1,855	3,193	7,534	△60	7,473	△3,983	3,490	
セグメント資産	52,245	16,750	20,856	89,852	1,818	91,671	△3,029	88,641	
その他の項目									
減価償却費	1,067	234	607	1,909	102	2,012	541	2,554	
のれんの償却額	733	50	154	938	—	938	—	938	
減損損失	14	60	37	111	12	124	—	124	
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	3,657	171	1,093	4,922	71	4,993	564	5,558	

(注) 1 「エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）他」には、エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）、HRコンサルティング他、グローバルソーシング（海外人材サービス）の各事業を含んでおります。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューション、シェアードを含んでおります。

3 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△3,983百万円には、当社におけるグループ管理費用等△4,021百万円、セグメント間取引消去38百万円が含まれております。

(2) セグメント資産の調整額△3,029百万円には、主に当社の現金及び預金とグループ管理に係る資産18,139百万円、セグメント間取引消去△21,169百万円が含まれております。

(3) 減価償却費の調整額541百万円は、主にグループ管理に係る資産の減価償却費であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額564百万円は、主にグループ管理に係る資産の増加額であります。

4 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			計	その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	連結 財務諸表 計上額
	HRソリューション							
	エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他 (注) 1	キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	アウトソーシング					
売上高								
外部顧客への売上高	217,057	16,222	25,718	258,998	4,729	263,728	—	263,728
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,173	42	511	1,727	889	2,617	△2,617	—
計	218,231	16,265	26,229	260,726	5,618	266,345	△2,617	263,728
セグメント利益又は損失(△)	1,959	2,904	4,276	9,140	△477	8,662	△4,802	3,860
セグメント資産	50,662	13,504	22,433	86,600	2,015	88,615	△3,259	85,356
その他の項目								
減価償却費	1,526	230	731	2,488	101	2,590	703	3,293
のれんの償却額	846	—	154	1,000	—	1,000	—	1,000
減損損失	—	37	—	37	—	37	—	37
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,445	209	883	3,537	504	4,042	467	4,510

(注) 1 「エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）他」には、エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）、HRコンサルティング他、グローバルソーシング（海外人材サービス）の各事業を含んでおります。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューションを含んでおります。

3 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△4,802百万円には、当社におけるグループ管理費用等△4,805百万円、セグメント間取引消去3百万円が含まれております。

(2) セグメント資産の調整額△3,259百万円には、主に当社の現金及び預金とグループ管理に係る資産12,552百万円、セグメント間取引消去△15,811百万円が含まれております。

(3) 減価償却費の調整額703百万円は、主にグループ管理に係る資産の減価償却費であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額467百万円は、主にグループ管理に係る資産の増加額であります。

4 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 【関連情報】

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

### 2. 地域ごとの情報

#### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

### 2. 地域ごとの情報

#### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	調整額	合計
	エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他	キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	アウトソーシング	計			
減損損失	14	60	37	111	12	—	124

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューション、シェアードを含んでおります。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	調整額	合計
	エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他	キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	アウトソーシング	計			
減損損失	—	37	—	37	—	—	37

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューションを含んでおります。

【報告セグメントごとののれんの未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	調整額	合計
	エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他	キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	アウトソーシング	計			
当期末残高	4,520	—	363	4,884	—	—	4,884

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューション、シェアードを含んでおります。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	調整額	合計
	エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他	キャリアソリューション(人材紹介、再就職支援)	アウトソーシング	計			
当期末残高	4,273	—	209	4,483	—	—	4,483

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューションを含んでおります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員および主要株主等

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主等

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社南部エンタープライズ (注)3	東京都千代田区	80	資産の管理及び運用	(被所有)直接 10.16	役務の提供	役務の提供	37	売掛金	3

(注) 1 取引金額は消費税抜きの金額で、期末残高は消費税等込みの金額で表示しております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

全ての取引条件については、当社と関連を有しない他社とほぼ同様の条件あるいは市場価額を勘案して一般取引条件または協議により決定しております。

3 株式会社南部エンタープライズは、当社代表取締役南部靖之及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社南部エンタープライズ (注)3	東京都千代田区	80	資産の管理及び運用	(被所有)直接 8.97	役務の提供	役務の提供	39	売掛金	5
							固定資産の譲渡 売却代金 売却益	863 4	—	—
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社ホワイトアンドストーン (注)4	東京都八王子市	48	資産の管理及び運用	—	—	ベネフィット・ワン株式の取得 (注)5	592	—	—
役員及びその近親者	白石徳生	—	—	当社取締役	—	—	ベネフィット・ワン株式の取得 (注)5	831	—	—

(注) 1 取引金額は消費税抜きの金額で、期末残高は消費税等込みの金額で表示しております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

全ての取引条件については、当社と関連を有しない他社とほぼ同様の条件あるいは市場価額を勘案して一般取引条件または協議により決定しております。

3 株式会社南部エンタープライズは、当社代表取締役南部靖之及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

4 株式会社ホワイトアンドストーンは、当社取締役白石徳生及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

5 ベネフィット・ワン株式の取得については、平成27年7月30日及び同年10月29日開催の株式会社ベネフィット・ワン取締役会決議に基づき、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNet-3）により取得したものであります。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社

1. 取得原価の当初配分額に重要な修正がなされた場合の修正内容及び金額

前連結会計年度では、パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社の取得原価の配分について、連結財務諸表作成時点における入手可能な合理的な情報等に基づき暫定的な会計処理を行っており、取得原価の配分は完了しておりませんでした。

当連結会計年度における取得原価の配分の見直しによるのれんの修正額は次のとおりであります。

修正科目	のれんの修正金額
のれん (修正前)	818百万円
顧客関係資産	△730百万円
繰延税金負債	256百万円
非支配株主持分	158百万円
その他取得原価調整額	82百万円
修正金額合計	△232百万円
のれん (修正後)	586百万円

2. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

586百万円

(2) 発生原因

取得原価が被取得企業の純資産を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

(3) 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

3. のれん以外の無形固定資産に配分された金額、種類別の内訳、償却方法及び償却期間

(1) のれん以外の無形固定資産に配分された金額

730百万円

(2) 種類別の内訳

顧客関係資産 730百万円

(3) 償却方法及び償却期間

9年間にわたる均等償却



## (1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
1株当たり純資産額	579円76銭	515円22銭
1株当たり当期純利益金額	5円82銭	6円62銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 株主資本において自己株式として計上されている「株式給付信託(J-E S O P)」及び「株式給付信託(B B T)」に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額の算定上、期末発行済株式総数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当連結会計年度における1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期末発行済株式総数及び期中平均株式数は、「株式給付信託(J-E S O P)」は194,000株であり、「株式給付信託(B B T)」は291,000株であります。
- 3 「会計方針の変更」に記載のとおり、企業結合会計基準等を適用しております。この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額はそれぞれ、28円45銭減少、3円13銭増加しております。

- 4 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	214	243
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	214	243
普通株式の期中平均株式数(株)	36,818,100	36,797,167

- 5 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	29,620	26,735
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	8,286	7,776
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	21,333	18,958
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	36,797,200	36,797,162

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株) パナソニックメディカル	第7回無担保社債	平成25年 1月25日	36	—	0.61	無	平成28年 1月25日
〃	第6回無担保社債	平成23年 3月31日	20	—	0.83	無	平成28年 3月31日
合計	—	—	56	—	—	—	—

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	120	13.52	
1年以内に返済予定の長期借入金	3,972	4,741	0.82	
1年以内に返済予定のリース債務	714	1,060	1.69	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	7,419	8,807	0.77	平成29年～平成34年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	1,568	863	1.69	平成29年～平成34年
合計	13,675	15,592		

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、海外子会社分を含めております。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,333	2,409	1,748	778
リース債務	409	287	89	58
合計	3,743	2,697	1,837	836

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	63,891	127,602	194,430	263,728
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (百万円)	258	985	1,926	3,861
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (△) (百万円)	△323	△334	△453	243
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△8.79	△9.08	△12.32	6.62

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 (△) (円)	△8.79	△0.29	△3.24	18.94

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,541	4,752
売掛金	※1 543	※1 700
貯蔵品	24	19
前払費用	※1 294	※1 308
繰延税金資産	40	—
未収還付法人税等	425	455
短期貸付金	0	—
未収入金	※1 742	※1 1,087
その他	※1 291	※1 296
貸倒引当金	△32	△52
流動資産合計	12,871	7,568
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,342	1,176
構築物	22	25
機械及び装置	0	0
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	198	180
土地	793	918
リース資産	1,574	962
建設仮勘定	22	149
有形固定資産合計	3,955	3,413
無形固定資産		
ソフトウェア	129	179
リース資産	31	16
無形固定資産合計	160	196
投資その他の資産		
投資有価証券	564	644
関係会社株式	29,070	30,166
長期貸付金	※1 5	※1 15
前払年金費用	22	52
繰延税金資産	361	399
敷金及び保証金	※1 1,733	※1 1,785
その他	207	135
投資その他の資産合計	31,965	33,198
固定資産合計	36,081	36,807
資産合計	48,952	44,376

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年 5月31日)	当事業年度 (平成28年 5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	3,890	4,672
CMS預り金	※1 19,158	※1 12,848
リース債務	505	844
未払金	※1 496	※1 491
未払費用	103	83
未払法人税等	17	17
未払消費税等	38	55
賞与引当金	76	38
繰延税金負債	—	1
資産除去債務	—	4
その他	220	60
流動負債合計	24,506	19,119
固定負債		
長期借入金	7,337	8,793
リース債務	1,220	394
長期預り保証金	※1 849	※1 915
資産除去債務	32	32
その他	65	42
固定負債合計	9,505	10,178
負債合計	34,012	29,298
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金		
資本準備金	5,000	5,000
その他資本剰余金	7,444	7,560
資本剰余金合計	12,444	12,560
利益剰余金		
その他利益剰余金		
圧縮積立金	8	6
繰越利益剰余金	1,346	1,486
利益剰余金合計	1,354	1,492
自己株式	△3,859	△3,976
株主資本合計	14,939	15,077
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	0
評価・換算差額等合計	0	0
純資産合計	14,940	15,077
負債純資産合計	48,952	44,376

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
売上高	※1 6,450	※1 7,383
売上原価	※1 1,683	※1 1,673
売上総利益	4,767	5,710
販売費及び一般管理費	※1, 2 4,031	※1, 2 4,741
営業利益	735	968
営業外収益		
受取利息	※1 6	※1 9
補助金収入	9	4
不動産賃貸料	※1 64	※1 62
保険解約返戻金	—	11
その他	※1 26	※1 23
営業外収益合計	106	110
営業外費用		
支払利息	※1 145	※1 150
貸倒引当金繰入額	30	19
コミットメントフィー	30	34
不動産賃貸原価	※1 54	※1 103
その他	84	34
営業外費用合計	346	343
経常利益	495	735
特別利益		
関係会社株式売却益	0	145
特別利益合計	0	145
特別損失		
固定資産除売却損	2	0
投資有価証券評価損	3	10
関係会社株式評価損	253	795
関係会社株式売却損	—	9
特別損失合計	260	815
税引前当期純利益	235	66
法人税、住民税及び事業税	△310	△516
法人税等調整額	△30	4
法人税等合計	△340	△512
当期純利益	575	578

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				圧縮積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	5,000	5,000	7,444	12,444	10	1,133	1,143
会計方針の変更による累積的影響額				—		10	10
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,000	5,000	7,444	12,444	10	1,143	1,153
当期変動額							
剰余金の配当				—		△374	△374
圧縮積立金の取崩				—	△2	2	—
当期純利益				—		575	575
自己株式の取得				—			—
自己株式の処分				—			—
株式給付信託による自己株式の取得				—			—
その他				—	0	△0	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—			—
当期変動額合計	—	—	—	—	△1	203	201
当期末残高	5,000	5,000	7,444	12,444	8	1,346	1,354

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△3,493	15,094	0	0	15,094
会計方針の変更による累積的影響額		10		—	10
会計方針の変更を反映した当期首残高	△3,493	15,104	0	0	15,105
当期変動額					
剰余金の配当		△374		—	△374
圧縮積立金の取崩		—		—	—
当期純利益		575		—	575
自己株式の取得	△366	△366		—	△366
自己株式の処分		—		—	—
株式給付信託による自己株式の取得		—		—	—
その他		—		—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		—	0	0	0
当期変動額合計	△366	△165	0	0	△164
当期末残高	△3,859	14,939	0	0	14,940

当事業年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				圧縮積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	5,000	5,000	7,444	12,444	8	1,346	1,354
会計方針の変更による累積的影響額				—			—
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,000	5,000	7,444	12,444	8	1,346	1,354
当期変動額							
剰余金の配当				—		△441	△441
圧縮積立金の取崩				—	△2	2	—
当期純利益				—		578	578
自己株式の取得				—			—
自己株式の処分			116	116			—
株式給付信託による自己株式の取得				—			—
その他				—	0	△0	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—			—
当期変動額合計	—	—	116	116	△2	139	137
当期末残高	5,000	5,000	7,560	12,560	6	1,486	1,492

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	△3,859	14,939	0	0	14,940
会計方針の変更による累積的影響額		—		—	—
会計方針の変更を反映した当期首残高	△3,859	14,939	0	0	14,940
当期変動額					
剰余金の配当		△441		—	△441
圧縮積立金の取崩		—		—	—
当期純利益		578		—	578
自己株式の取得	△0	△0		—	△0
自己株式の処分	382	499		—	499
株式給付信託による自己株式の取得	△499	△499		—	△499
その他		—		—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		—	0	0	0
当期変動額合計	△116	137	0	0	137
当期末残高	△3,976	15,077	0	0	15,077



## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価額等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

### 2. デリバティブ取引により生じる債権及び債務の評価基準及び評価方法

時価法

### 3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

### 4. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(附属設備を含む)及び構築物

定額法(ただし、平成28年3月31日以前に取得した建物附属設備及び構築物は定率法)

その他の有形固定資産

定率法

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア 社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法

#### (3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### 5. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

なお、当事業年度末における計上はありません。

#### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に充てるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

##### ①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

##### ②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、発生年度の翌事業年度に一括損益処理しております。

## 6. ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしているため、金利スワップは特例処理によっております。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：金利スワップ

ヘッジ対象：借入金

### (3) ヘッジ方針

金利等の相場変動リスクの軽減、資金調達コストの低減、または将来のキャッシュ・フローを最適化するためにデリバティブ取引を行っております。短期的な売買差益の獲得や投機を目的とするデリバティブ取引は行わない方針であります。

### (4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動とヘッジ手段の相場変動を半期毎に比較し、両者の変動額を基礎にして、ヘッジの有効性を評価することとしております。なお、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、ヘッジの有効性の評価を省略しております。

## 7. その他財務諸表の作成のための基本となる重要な事項

### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

### (3) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

### (会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であります。

### (追加情報)

#### 1. 株式給付信託(J-E S O P)

当社従業員ならびに当社子会社の役員及び従業員に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項（追加情報）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

#### 2. 株式給付信託(B B T)

取締役(社外取締役を除く。)に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項（追加情報）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
短期金銭債権	1,177	1,726
短期金銭債務	19,413	13,133
長期金銭債権	8	21
長期金銭債務	832	898

2 偶発債務は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
外部からの借入金に対する債務保証		
Pasona India Private Limited	—	49
健康保険組合への保険料に対する債務保証		
株式会社パソナメディカル	28	28
株式会社パソナテキーラ	8	5
株式会社日本雇用創出機構	1	0
株式会社パソナふるさとインキュベーション	1	0
株式会社パソナ農援隊	0	0
株式会社ブリッジフォース	0	0
株式会社アトトリボン	0	0
株式会社ベネフィットワン・ペイロール	—	0
株式会社V I S I T東北	—	0

(損益計算書関係)

※1 各項目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
売上高	4,707	5,593
売上原価	202	122
販売費及び一般管理費	880	1,082
営業取引以外の取引高	75	81

※2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度1.7%、当事業年度1.4%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度98.3%、当事業年度98.6%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
給料及び賞与	1,100	1,252
貸倒引当金繰入額	1	△0
賞与引当金繰入額	75	38
賃借料	484	455
減価償却費	267	479
業務委託費	727	892

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度 (平成27年 5月31日)

(単位: 百万円)

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	1,754	53,370	51,615

当事業年度 (平成28年 5月31日)

(単位: 百万円)

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	1,754	66,863	65,108

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位: 百万円)

種類	前事業年度 (平成27年 5月31日)	当事業年度 (平成28年 5月31日)
子会社株式	27,257	28,328
関連会社株式	58	83
合計	27,315	28,411

これらについては、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年 5月31日)	当事業年度 (平成28年 5月31日)
繰延税金資産		
減価償却	109	211
貸倒引当金	10	15
賞与引当金	29	13
未払事業所税	6	5
未払事業税	1	0
未払費用	2	2
関係会社株式売却益	74	70
関係会社株式評価損	1,178	1,335
繰越欠損金	963	889
資産除去債務	10	11
その他	19	19
繰延税金資産小計	2,405	2,575
評価性引当額	△1,977	△2,129
繰延税金資産合計	427	446
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△3	△2
前払年金費用	△7	△16
その他有価証券評価差額金	△0	△0
資産除去債務	△7	△6
その他	△6	△22
繰延税金負債合計	△25	△48
繰延税金資産（負債）の純額	402	398

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年 5月31日)	当事業年度 (平成28年 5月31日)
流動資産－繰延税金資産	40	－
固定資産－繰延税金資産	361	399
流動負債－繰延税金負債	－	△1

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳は以下のとおりであります。

(単位：%)

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
法定実効税率	35.64	33.06
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	18.50	64.24
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△292.74	△1,437.38
住民税均等割額	5.44	19.67
外国子会社配当源泉税	2.84	9.56
税制変更による影響	108.39	△39.47
連結納税制度適用による影響	△9.63	△47.26
評価性引当額	△11.86	631.41
その他	△1.39	△3.20
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△144.80	△769.38

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度の32.30%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年6月1日から平成30年5月31日までのものは30.86%、平成30年6月1日以降のものについては30.62%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が26百万円増加し、当事業年度に計上された法人税等調整額が26百万円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④ 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,342	60	0	226	1,176	1,210
	構築物	22	7	—	4	25	23
	機械及び装置	0	—	—	0	0	3
	車両運搬具	0	—	—	—	0	0
	工具、器具及び備品	198	60	6	71	180	263
	土地	793	124	—	—	918	—
	リース資産	1,574	18	—	630	962	2,449
	建設仮勘定	22	149	22	—	149	—
	計	3,955	420	29	932	3,413	3,950
無形固定資産	ソフトウェア	129	121	—	71	179	—
	リース資産	31	—	—	14	16	—
	計	160	121	—	86	196	—

(注) 1 建物の増加の主なもの

古民家(研修施設)開設 20百万円  
まなびの郷(研修施設)改修工事 18百万円

2 工具、器具及び備品の増加の主なもの

I T・システム関連シェアード事業 30百万円  
事業用備品購入等 20百万円

3 土地の増加の主なもの

淡路島事業用 124百万円

4 建設仮勘定の増加の主なもの

事業用備品購入等 102百万円  
新規拠点準備に伴う投資 38百万円

5 ソフトウェアの増加の主なもの

I T・システム関連シェアード事業 116百万円

## 【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	32	19	—	52
賞与引当金	76	38	76	38
退職給付引当金	△22	10	40	△52

(注) 1 退職給付引当金の「当期減少額」欄の40百万円は、当事業年度の確定給付企業年金制度の年金拠出額及び数理計算上の差異の償却による戻入額であります。

2 退職給付引当金は、貸借対照表「投資その他の資産」に「前払年金費用」として表示しております。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
剰余金の配当の基準日	11月30日、5月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.pasonagroup.co.jp/ir/">http://www.pasonagroup.co.jp/ir/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を有しておりません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利



## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第8期（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

平成27年8月20日 関東財務局長に提出

内部統制報告書及びその添付書類

平成27年8月20日 関東財務局長に提出

四半期報告書及び確認書

第9期第1四半期（自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日）

平成27年10月13日 関東財務局長に提出

第9期第2四半期（自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日）

平成28年1月14日 関東財務局長に提出

第9期第3四半期（自 平成27年12月1日 至 平成28年2月29日）

平成28年4月11日 関東財務局長に提出

臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

平成27年8月20日 関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第6号の2（株式交換）の規定に基づく臨時報告書

平成28年4月27日 関東財務局長に提出

参照方式による有価証券届出書(第三者割当による自己株式の処分)及びその添付書類

平成27年10月9日 関東財務局長に提出

有価証券届出書の訂正届出書

平成27年10月13日 関東財務局長に提出

平成27年10月9日提出の有価証券届出書に係る訂正届出書

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年 8 月19日

株式会社 パソナグループ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 國井 泰成

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大橋 武尚

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パソナグループの平成27年6月1日から平成28年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パソナグループ及び連結子会社の平成28年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社パソナグループの平成28年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社パソナグループが平成28年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成28年 8月19日

株式会社 パソナグループ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 國井 泰成

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 大橋 武尚

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パソナグループの平成27年6月1日から平成28年5月31日までの第9期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パソナグループの平成28年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。